

<所内資料>

全国マシジド（モスク）代表者会議・第2回次世代部会

「ヤングムスリムとムスリム・コミュニティ：

ヤングムスリムの居場所から考える」の記録

2018年9月15日

July, 2019

早稲田大学多民族・多世代社会研究所

Institute for Multi-ethnic and Multi-generational Societies, Waseda University

早稲田大学イスラーム地域研究機構

Organization for Islamic Area Studies, Waseda University

## 目次

目次.....	2
序.....	3
プログラム.....	4
編者.....	5
会議運営者・協力者.....	5
編集協力者.....	5
関連研究助成プロジェクト一覧.....	5
主な会議出席者・オブザーバー.....	6
第1部 次世代から見たモスクの現状と課題.....	7
第2部 モスクの外の居場所について考える.....	40

## 序

本報告書は、2018年9月15日に早稲田大学（早稲田キャンパス）で開催された全国マ  
スジド（モスク）代表者会議・第2回次世代部会「ヤングムスリムとムスリム・コミュニ  
ティ：ヤングムスリムの居場所から考える」の会議録である。本会議は、2009年に「全国  
モスク代表者会議」として始まり、2012年に名称を「全国マシジド（モスク）代表者会議」  
と変更して、継続して開催している。今回は、2018年2月に実施した第1回次世代部会  
の続編として、滞日ムスリムの若者世代をお招きし、非公開形式で開催した次世代部会  
の第2回目である。今回は、主催者側を含め20名前後の参加者があり、充実した報告と忌憚  
のない意見交換がなされた。

今回の会議でも、若者世代の外国人ムスリムと日本人ムスリムの方々にお集まりいた  
だき、若い世代の居場所をテーマとして、マシジド（モスク）とそれ以外の居場所（サ  
ードプレイスなど）について、自由に議論をしていただき、貴重なご経験やご意見を語  
っていただいた。プログラムでは、「第1部・次世代から見たモスクの現状と課題」、  
「第2部・モスクの外の居場所について考える」として設定したが、こうした枠にしば  
られることなく、活発な議論が展開された。

会議開催にあたっては、滞日ムスリムの若者世代の方々をはじめ多くの人たちから  
多大なご協力をいただいた。これら沢山の皆様に厚く御礼申し上げ、これからの  
ご協力についても改めてお願いする次第である。

2019年7月

岡井 宏文  
店田 廣文

## プログラム

全国マスジド(モスク)代表者会議 ・第2回 次世代部会

『ヤングムスリムとムスリム・コミュニティ：ヤングムスリムの居場所から考える』

日時：2018年9月15日(土) 13:00~17:00

於：早稲田大学・早稲田キャンパス (地下鉄東西線早稲田駅より徒歩5分)

26号館 1102教室

早稲田キャンパス内地図：<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

<https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2014/08/75fbe93c96f198b17f2f294320b48990.pdf>

主催：早稲田大学多民族・多世代社会研究所

早稲田大学イスラーム地域研究機構

早稲田大学アジア・ムスリム研究所

### プログラム：

13:00-13:05 開会の挨拶 早稲田大学人間総合研究センター 岡井 宏文

13:05-13:30 趣旨説明 早稲田大学人間科学研究科 クレシ 愛民

13:30-15:00 第1部 次世代から見たモスクの現状と課題

15:00-15:30 礼拝時間・休憩

15:30-17:00 第2部 モスクの外の居場所について考える

17:00-17:10 閉会の挨拶 早稲田大学多民族・多世代社会研究所 店田 廣文

司会：人間総合研究センター 招聘研究員 岡井 宏文

早稲田大学人間科学研究科 クレシ 愛民

### 参加予定者：

アフメド アリアン氏

ダルウィーシュ 奈菜氏

西澤 シャヘレヤール氏

林 純子氏

マリク ザイラ氏

ムハンマド グフロン ヤジッド氏

礼拝室：26号館11階 1101教室

## 編者

(所属は 2018 年 9 月現在)

岡井 宏文 早稲田大学人間総合研究センター・招聘研究員

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

## 会議運営者・協力者

(所属は 2018 年 9 月現在)

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

長谷部圭彦 早稲田大学イスラーム地域研究機構・次席研究員

岡井 宏文 早稲田大学人間総合研究センター・招聘研究員

小野 亮介 早稲田大学人間科学学術院・助手

小池 寿裕 早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程

クレシ愛民 早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程

## 編集協力者

(所属は 2018 年 9 月現在)

小野 亮介 早稲田大学人間科学学術院・助手

クレシ愛民 早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程

## 関連研究助成プロジェクト一覧

本会議および本報告書は、以下の研究助成による研究成果の一部である。

- ・「人間文化研究機構 (NIHU) プログラム イスラーム地域研究」 (早稲田大学拠点) 研究  
代表者: 桜井 啓子
- ・平成30~32 度科学研究費補助金基盤研究 (C) ・課題番号18K01976 「滞日ムスリム・コミュニティの地域社会活動と地方自治体の多文化共生政策の課題」 研究代表者: 店田  
廣文



## 第1部 次世代から見たモスクの現状と課題

岡井 はい、それでは時間もうかなり大幅に過ぎておりますので、マスジド代表者会議第2回次世代ムスリム部会を始めたいと思います。皆さん、お足元悪い中、こんな早稲田くんだりまで来ていただいてどうもありがとうございます。

きょうは、マスジド代表者会議ということで、私どもも10年ぐらいずっとモスクの代表者の方をお呼びして、日本のイスラムについていろんなことを話してきました。

例えば、モスクの役割ですとか、子どもの教育の話とか、子育ての話、あと、ハラールの話、いろんなことを話してきたんですけども、ここ10年もやっているとプレーヤーが変わってきているということが、最近、分かってきて、というのは、皆さんがたの世代の若いムスリムの活躍というのが目立っていて、そうした人たちの話っていうのをみんなでも共有しよう。共有して、ムスリム同士がつながってもらえたらいいなということで、こちらにいるアミン君と一緒に企画して始めたのがこの会になります。

実は、今回が2回目になりまして、1回目の回を今年の初めにやっています。今回はその内容を受けて、ちょっとさらに踏み込んだ話に入っていこうかなということで企画しております。

具体的な内容というのは、アミン君が練っているもので、ここからはアミン君に趣旨説明をしてもらってから皆さんと会に入っていきたいと思っております。じゃ、私のあいさつに時間を取ってもあれですので、早速、アミン君から趣旨説明に入っていただきたいと思っております。

アミン 早稲田大学人間科学研究科、クレス愛民と申します。本日は、お越しくださり、ありがとうございます。まず今のちょっと配布していただいているプログラムに参加予定者に6名名前が記載されているんですけども、女性の方、2人、ダルウィーシュ奈菜さん、林純子さんって、第1回次世代会議にも来ていただいたんですが、本日も体調が優れないということで、本日はいらっしゃらないということです。

今回の内容としては、『ヤングムスリムとムスリム・コミュニティ:ヤングムスリムの居場所から考えるー』。この居場所から考える、居場所がキーワードになるなというふうを考えております。前回は、親世代と第2世代だったりとか、改宗者だったりとかも含めると次世代というような言い方をさせていただいておりますけれども、次世代と親世代の関わりだったりとかというのをかなり皆さんでお話をできたというふうに思っておりますが、今回は、居場所というのが、キーワードになっております。

具体的には、モスクがムスリムコミュニティの中心であるというようなのが通説と申しますか、日本のモスクに関しても、ムスリムたちにとってただの礼拝の場ではなく、さまざまな社会的機能を担っている場というふうにされています。

実際にくだらな話ではあるんですけども、最近、あるモスクでイマームさんが、礼

拝先導者の方ですね。イマームさんが、家族を今度日本に呼びたいというような話をしているときに、ビザのいろいろ手続きが必要だということで、僕が呼び止められて、日本語おまえ、できるだろうということで呼び止められ、夜8時半から10時半ぐらいまでずっとそのビザの手続きを手伝わせていただいていたんですけども、手伝っていると、どんどん人が集まってくるんです。みんなも手伝いたいと、どんどん人が集まってきて、結局5人ぐらいのおじさまがたと座って、みんなで手続きを一緒にやって、いろんなアドバイスをしながら、僕は永住権あるからこれ分かるんだとか、いろんな話をしながら、サポートし合っていたと、まさに、礼拝の場としてだけでなく、社会的な機能を担っている、なんかそれを目の当たりにしたというふうなのを感じた瞬間でした。

一方で、よく日本にいても、女性ですね。女性についてモスクを必ずしも憩いの場として感じていない、居場所として感じていないのではないかなという話を聞くことがありまして、改宗者のかたがたに関しても、改宗してすぐにいろいろなことを言われたりとかってというようなプレッシャーを受けてモスクに来なくなってしまうというようなこともよくよく聞くような気がします。

それ以外にも、例えば、パキスタン人、パキスタンってのを出したんですけども、どこでもいいのですが、例えば、パキスタン人が多くいるモスクに通っていたアラブ系のムスリムの方と、この前、話をしていたのですが、彼はもう何年間も通っていたけれども、まだ居心地が悪いと思う。行っても何か見られると、あるいは格好だったりとか、例えば、半ズボンで、膝とか隠れているけれども、何かちょっと入ると視線を感じて非常に居心地が悪い。もう何年も通っているのにいつまでたっても居場所として感じられないというような話もありまして、モスクがどこまで居場所なのか、誰にとって居場所なのか、次世代はモスクをどう考えているのか、そういったところを本日、皆さまに話し合っていたきたいなというふうに思っております。今回、登壇者のかたがた、4名、真ん中に座っていただいておりますけれども、オブザーバーの方もこちらからちょこちょこ話を振ったりとかさせていただきますので、ぜひ、積極的に関わっていただければと思います。

趣旨としては、大体、このような流れで話せばなというふうに思います。では、自己紹介から始められればなというふうに思うんですけども、お名前だけでなく、軽くでもいいので、今、ご自身が活動されていたりとか、ぜひ、これはシェアしておきたいとかというのがあれば、それも含めていただいて、もし、今、言った趣旨の内容に沿ったことで、今のうちに言っておきたい。僕はこういうスタンス、私はこういうスタンスですっていうようなのがあれば、それも含めて自己紹介をしていただければなというふうに思います。本日は、よろしく願いいたします。では、じゃあ、アリアンさんからいきましょう。

アリアン アッサラーム・アライクム。ご紹介にあずかりましたとおり、アリアンと申します。前回、ここのほうに第1回の代表者会議のほうに参加したんですけども、そのときも、いろいろ意見を言って、そこからいろいろ学んで、心変わりというか、いろんなこ

とを気付きつつ、今に至るんですけど。今、大学1年生で、早稲田の国際教養学部に所属しております。今回、『ヤングムスリムの居場所』ということで、いろいろ大学1年生という視点と、あとパキスタン人、そして、もう一つ言えば、僕はモスクのほうで3年弱、クルアーンの勉強をして、そこでクルアーンを全部暗記した人と、そのモスクとの関わりが、何十年もあって、その中でも濃い時間を過ごしてきたので、そういった立場から何か意見を言えればなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

アミン お願いします。

マリク アッサラーム・アライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

マリク 東京外国語大学大学院に所属している、マリク・ザイラと申します。今回は、2回目ということで、1回目は参加していなかったもので、ちょっと初めてで緊張しているということもあるんですけども、皆さんといろいろなことを共有できたらいいなと思っています。よろしく願いいたします。

アミン よろしく願いいたします。

グフロン アッサラーム・アライクム。グフロンと申します。第1回目参加していて、そのときには、代々木上原にある友愛インターナショナルスクールというイスラミックスクールの教師として参加していたんですが、今は、転職しまして、東京ジャーミイで学芸員として活動する傍ら、お花の仕事をしています。

で、モスク、東京ジャーミイもトルコ文化センターとして、新しい建物も隣にできたばかりで、これからプロジェクトも大きくなる予定なんですが、東京ジャーミイとしても、若い子たちとか、ノンムスリムの日本人がいかにしてモスクに寄ることができるかというのを模索していて、僕もそのお手伝いができるようにということで、いろいろこれからやりたいなと思っています。

さっきリクエストがあったので、お花の活動を見せたいんですが、何人かの方がもうインスタグラムとかフォローしてくださっているので分かると思うんですけども、ブーケを作ったりとか、あとは、何ていうんですかね、ワークショップです。お花のワークショップをして、アレンジメントを作ったり、ブーケを作ったり、お花に触れる機会をいろんな人に経験してもらってということをしております。インドネシアのジャカルタにこの間行ってきたんですが、ジャカルタの方にウエディングブーケをするワークショップをした感じです。東京ジャーミイでもノンムスリムの日本人や、若いムスリムの子たちが来るき

っかけになるようにということで、来月から月1回、お花のワークショップをやることになりそうなので、インシャーアッラー、どうぞ、皆さんよかったら参加してください。いろいろ載っているのでもしよかったらグフロン・ヤジットで検索していただければ、見ていただけます。

桜井 岡井 すてき。

シャヘレヤール ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム。パキスタンと日本のハーフのシャヘレヤールです。第1回も参加したんですけれども、今回も参加することになって、主に活動は、特に頑張っているのは、群馬のほうでちょっとマドラサ、イスラームの勉強とか研究とか、そういう形で通っています。大体、1年ぐらいたつ感じです。

それ以外には、最近、次世代の、2世の人たちを集めて、ちょっと何かそういうアクティビティ、そういうイベントみたいなのを開催して、ラッバイクという名前で始めています。Twitterとかでも発信とかしていたりして、その活動内容とか。活動もいろんな活動なんで、一概に、その中には、ストリートダアワとかもあったり、みんなでバーベキューやったりとか、スポーツやったりとか、それ以外にもただの普通の食事会とか、いろんな活動内容があるんですけれども、それを随時、ちょっとペースはそんなに速くないけど、Twitterのほうで発信しています。

あとは、翻訳とかもやったりとか。これから次世代に向けて必要なこととかも、また考えてそれについても努力とかもしているんで、あと、この格好見たらみんな分かると思うんですけれども、タブリーギー・ジャマーアトとかにも参加していますね。で、僕たちが行っているジャマーアトは、ちょっと本でも紹介されたんですけれども、次世代、ちょっと若い、改宗されたムスリムの方と、次世代のそういう2世の若いムスリムの人たちと一緒に行くジャマーアトで、大体、メンバーも、いろんなハーフの人たちもいて、モロッコのハーフとかも、タイのハーフとか、ミャンマーのハーフとか、バングラデシュのハーフとか、それだけじゃなくて、そういうハーフとかも関係なく、国ももう全然。でも、メインの言葉は日本語で全てやっています。

で、それは、ジャマーアトなんで、1カ所じゃなくて、それぞれマスジド移動しながら、毎月3日間とか、いろんなモスクでそういう月に1回、毎月3日間、そういうのに出て、次世代のそのモスク近辺に住んでいるムスリムたち、特に次世代のムスリムたちをモスクのほうに呼び寄せて、つながりをつくっています。よろしくお願ひします。

アミン ありがとうございます。いろんな活動をされて、いろんな思いを持って、次世代として生きていらっしゃるかたがたがここにいるんだなというふうに感じました。次世代会議なんて言い方をしていますけれども、本当に自由に、皆さんに、誰か話しているときにも、ちょっと突っ込んだりとか、質問したりとか、これどういうことなのとかというの



菊池 こんにちは。菊池です。日本とアメリカのハーフで、最近、ムスリムの友達ができたのをきっかけに興味を持ったので、きょう参加してみました。お願いします。

翁長 アッサラーム・アライクム。私は学生で、今、文化学園大学で国際ファッション文化学科という学科で、ファッションを学んでいます。母がインドネシア人で、父が日本人で、こういうヤングムスリムのコミュニティがすごく気になったので、今回は、父に勧められて来させてもらいました。よろしくお願いします。

桜井 皆さん、こんにちは。私は早稲田大学の国際教養学部で、教員をしている桜井と申します。あと、早稲田には、イスラム地域研究機構というのがあるんですけども、その機構長をしているということもありまして、研究としては、イランを中心に中東の社会変動などをずっと専門に研究してきた者です。私自身はムスリムではないんですけども、40年ぐらいそういうイスラム地域の社会について研究してきたのとたくさんのムスリムの友達がいるので、私にとっては、自分の生活の一部というぐらい、ごく自然にずっと40年間あまり宗教の差異を意識せず、友達として付き合いしてきたという経験がありますので、いろんな意味で、皆さん、応援したいと思ってここにおります。よろしくお願いします。

アミン ありがとうございます。

店田 主催者の1人なんで、ここで発言すべきなのかよく分からないんですけども、取りあえず、きょうは皆さん若い人たちのムスリム会議ということでやっているんですが、もう10年以上にわたって、皆さんの親世代のかたがたですね。マスジド会議、モスク会議というのを10年以上前から開催してまして、日本に住んでいるムスリムのかたがたの調査、あるいは研究をやっております。一番、一応、最後にあいさつをすることになっているんですが、店田と申します。まだ、会議の設定、改めて閉会のときにもまたちょっとお話ししたいと思います。よろしくお願いします。

小野 早稲田大学人間科学学術院で、店田先生の所で助手としてお世話になっております、小野と申します。歴史のことをやっているんですけども、大体80年ぐらい前に日本にいたタタール人の人たちについて調べていますけれどもタタール人の人たちもこういう子ども世代の人たちについて相当、あれこれ議論をした形跡がありまして、きょうの皆さんのお話の内容というの、多分、僕自身の研究にも非常に参考になるのではないかなと思っておりますので、皆さんの議論をととても楽しみに聞かせていただこうと思っています。よ

ろしく願います。

アミン 願います。皆さん、ありがとうございます。かなり多様なかたがたがここに座っているんだなというふうを感じる次第です。席の並びとしては、こうなっておりますが、オブザーバーの方も積極的に手を挙げていただいて、何か質問があったりとか、これどうなのというのがあれば、手を挙げていただければ、こちらで指しますので、積極的に関わっていただければと思います。はい、ありがとうございます。

まず、さっきアリアンさんが、さっきモスクとの関わりが強いのかなというような3年間、モスクに通っていたということですね。クルアーンの暗記を、モスクに3年間通ってやっていたと、アリアンさんにとってモスクってというのはどういう場なのか、そして、他の同じ世代の若いムスリムは、モスクをどう感じているのかっていうのを、アリアンさんの視点からちょっと伺いできれば。

アリアン モスクはまず僕からしてどういう場所なのかっていうふうにという話なんですけれども、それに関しては、僕がもう親からの勧めというか、結構、父が幼い頃からイスラム教徒としての自分であったり、そういった知識とか含め、クルアーンもそうですけど、イスラム関連の知識を、幼い頃からいろいろ教わったので、モスクに対しては、クルアーンの勉強をしていた時期もあるので、自分としては、第2の、家の次に来る、それからいろんな友達、本当に小さい頃から通っているので、そこでできた同じムスリムの友達がいっぱいいる場所で、そこに毎週、みんな住んでいる場所が遠いので、毎週、週末に集まって、そこで、みんな集まって時間を過ごすような場所になっていて、その人たちは、本当に付き合いも長いので、心の距離感もう本当に近いですし、そういうところもあるので、結構、モスクに対しては親近感のある、親近感というか結構大事な場所なのかなというふうに思います。大事というか、心の中の一部だと思っているので、大事というより本当に一部だというふうに実感しています。

他の、僕が通っているモスクによって、その環境が違ったりとか、そういうこともあると思うんですけども、他の人から、僕がその関わっているみんな、僕の関わっている友達も皆さん、そういったモスクに対して、同じような見解を持っているのではないのかなというふうに思います。

アミン アリアンさんも、アリアンさんの周りの次世代ムスリムたちもモスクをかなり、先ほど第2の家、大事な場所とかっていう言葉も出て来ましたが、皆さんそういうふうを考えているということですね。

アリアン はい。

アミン あとにはモスクによっても違うと、違いがあると。

アリアン そうですね。あると思います。

アミン 分かりました。では、ちょっとグフロンさんに、いろいろお伺いしたいことがあるんですが、今のそのグフロンさんにとってのモスクがどういう場なのかというのを少しお伺いできればというふうに。

グフロン 僕は、インドネシア人の両親の元に日本で生まれて、ずっと生まれたときから東京に住んで、東京で過ごしているんですが、僕の時代には、学校にはほとんどムスリムいなかったんで、自分一人という状況で、あとはハラールだったりとか、そういうイスラムの知識っていうのも、日本人の間でほとんど広がっていない時代でしたので、両親はきっと心配していたこともあり、週末に、毎週土曜日に、土曜日か日曜日か忘れたんですが、東京ジャーミイに通っていたんです。小学6年生ぐらいから、中学生高校生まで、高校生だったかな、通っていたんですが、そのときも東京ジャーミイでは、特に子ども用の教室、今もあるような子ども用のイスラム教室っていうのは、特になくて、本当に行っても、職員、東京ジャーミイの職員とクルアーンを1ページ読んでおしまいっていう感じだったんですが、ただ、両親の考えで、きっと少しでもイスラムと関わりがあるようになっていうことで小さい頃通っていました。

ただ、高校生になってから、自我が生まれ始めてから、大学生になってからは、ほとんどモスクっていうのは行かなくなってしまって、行くとしても金曜礼拝だけで、そのときは大学の近くのモスクが大塚モスクだったんですが、大塚モスクに週1で行くぐらいでした、モスクっていうのは。

で、東京ジャーミイには休みの日とか行ける日に、金曜礼拝で通っていたのですが、それ以外は本当に行かない時間が続いて、大学院を卒業した後に、友愛インターナショナルイスラミックスクールで働き始めてから、校舎がモスクのすぐ後ろにあるので、毎日お昼はモスクでお祈りして、で、仕事が終わった後も、お祈りをモスクですてから帰るっていう生活が始まって、ラマダーンときには特に、断食明けの食事をモスクですてから帰るっていうのが、自分の中でも普通になってきたんです。なので、大人になってからモスク帰りしたというか、自然にモスクがそこにあるっていう環境がアルハムドゥリッラーあったので、友愛で先生やってからは、モスクにいる時間が長くなりました。

それで、モスクに長くいることもあって、イマームさんとかモスクの職員の方と知り合う中で、お話をする中で、結局、学芸員として、モスクの者として働くことになっているんですが、友愛の生徒たちも、やっぱりモスクがすぐ近くにあるので、学校帰りにちょっとモスクでたむろって、モスクでおしゃべりしてから帰るっていうことを普通にしていたりとかする生徒もいたり、若い子があんまり今、いないので、友愛の生徒たちがモスクの

中で、ギャーギャー騒いでいるとすごく目立ってしまっってちょっと静かにしろっかって言ったりするんですけど、そういう環境、状況を見ていると、あまりモスクで小さい子とか、若い世代の子たち見ることで、そういえばないなって感じていて、友愛の学校の近くにあるので、友愛の生徒はいるんですけど、あんまりそれ以外で、若い子たちがモスクに来てっていうのは、そういえば見ないなっていうふうに、モスクの者として、モスクの中の人として働き始めてからも感じていて、なので、東京ジャーミイとしてもやっぱり若い子たちをモスクに呼びたいとか、ノンムスリムの日本人の人たちを呼びたいってことで、いろいろやっていて、毎週土日に何か、予約しなくていいツアーっていうのを日本人向けにやっているんですけど、僕もそれガイドとして説明したりするんですが、そこには結構、毎週、毎日来て、参加者が40~50人いらっして、本当にたくさんの日本人がいらっしたりして、それ以外にも書道教室であったりとか、陶芸の教室だったりとかをやっていて、そういうのをきっかけに呼ぼうとしているなっていうのを感じています。

で、僕にとっては、だから、職場が近くにあったので行くようになったんですが、やっぱりモスクにいると落ち着くっていうのもあるし、普段、東京の厳しい空気とかにさらされて、いろいろストレスたまったり、毎朝、通勤の電車とか、大変ですよ、皆さん。そういうのから本当に離れたところにあるすごい神聖な場所というか、そこにいるだけで、日本人としても落ち着くっていう話もたくさん聞くし、やっぱりそういう僕にとってはモスクはやっぱり自分をリセットする場所。

今は、職場としてちょっと違った目で見えてしまっているんですが、やっぱりそれでも精神的に落ち着ける場所として感じています。

アミン ありがとうございます。先ほど、近くに大塚モスクがあった、週1で通っていたり、金曜日だけでも通っていたりっていうことをおっしゃっていましたが、モスクのさっき、アリアン君の話にもあったように、モスクによっても違いがいろいろあるのかなっていうふうに想像しますけれども、東京ジャーミイ、大塚モスク、その他のモスクにもいろいろ行かれたことは、ありますか。

グフロン 東京ジャーミイには近くで働く前からも、本当にすごい落ち込んだこととか、何か自分の中で挫折みたいなのがあったときに本当にたまに行っていたんですが、それ以外のモスクに関しては、もう作業というか、礼拝したいとか、金曜礼拝で、近くにあるのがこのモスクだからっていうので、行くぐらいですよ。やっぱり東京ジャーミイの場合は、ノンムスリムに対しても結構寛容だったり、入り口が大きいし、モスク自体が大きいし、窓も大きいし、明るいっていうのがあるんですが、それで入りやすいっていうのもあって、行っていたんですね。

それで、他の大塚モスクは、やっぱりちょっと行きにくいっていうのがあって、その金曜礼拝で行っていたんですけども、いつまでも他人という感じで。コミュニティがやっ

ぱりパキスタンだからかなと思ったりもするんですけど、町自体の空気感とか、そういうのも自分は、結構、駅を降りてからも、モスクに行くまでの道のりもあまり気持ち良くなって、大塚モスクの場合は。なのでそういうのも含めてあまりこやっぱり金曜礼拝のとき以外は、あんまり行かなかったですね。

で、御徒町モスクに関しては、結構、お祈りするときに使っていて、今でも。交通の便がいいっていうのもあって、あとは、何だかこう行きやすい感じがしますね。だから、イフタールのときなんか、ただ飯食えるので、すごいおいしいんですよ、あそこのイフタール。すごいきれいにちゃんと整理されて、汚れないように、ちゃんとこう1人が食べる分を用意されてっていうので、イフタール、食事がありつけられるんです。

それで、結構、気持ち良くいただけるし、というのもあって、御徒町モスクのほうにはよく行きますけれども、あとはアミンさんと、この間出掛けたときも、マグリブがしたいっていうので、道の途中でモスク見つけて礼拝したりとか、礼拝するためにモスク探して行くっていう感じですね。

アミン ありがとうございます。第2の家として感じているっていうのは、大塚モスクのことを言っているんですか。

アリアン そうですね。僕の場合には、大塚モスクの話ですが。本当に幼い頃から通っていたので、親近感があるっていうふうなことであって、だからこそ、他の人が見えなところも、もう見えなくなってしまうっていうのは、本当に感じるんですけど。大塚モスクの中でも結構長いので、今、その大塚モスクの代表者になったり、今、会長さんであったり、そのかたがたからも結構彼ら自身もそれを自覚していて、もう彼らには彼らの限度っていうのがあって、その文化的な背景もそうですし、もう40年とか50年とか日本にいますけれども、それでも結構、彼らも自覚していて、パキスタン人としてもうその自分たちは存在するということも分かっている、だからこそ、モスクに関して、これからの今後の活動っていうのは、若い世代、結構、その僕が頼られていたりはするんですけど、そういったここはどうすればいいとかの相談とかもたまに問い掛かってきたりとか、ここはこうしたほうがいいんじゃない、みたいないろいろアドバイスはするんですけど、そういったところでちょっとずつ改善していこうと思います。

これからちょっとリフォームもあって、確かにちょっと閉鎖された場所かなというふうには、僕も感じていて、なのでこれからもそういうのは良くなっていくのではないかと。大塚モスク以外のモスクで言った場合、御徒町モスクもそうなんですけれども、それ以外にもいろんなモスクには行って、その結構、グフロンさんも言っていたとおり、僕もそうだったんですけど、小学校通っている間、その学校の中で、中学も、高校もそうなんですけど、ムスリムはもう自分だけで、自分一人だけで、特に同じムスリムの友達もいないんですけど、モスクに行ったら、その数少ない同じムスリムの仲間がそこにいると

いうふうなところで、結構、行っていたんですよ。

それは、大塚モスクだけじゃなくて、実は。結構いろんなモスクに、そういう派閥じゃないんですけど、グループみたいなのがあって、きょうはじゃああっちのモスクに行って、あっちの友達いるからあっちのグループで、土曜日はあそこに行こうかなみたいな、そういった感じで、それぞれのモスクにいる若者にたびたび会いに行くみたいな。で、そういった感じだと、同じ、数少ないムスリムとしてのアイデンティティを持っている仲間の所に行くような場所なのかなっていうふうには思います。それは、大塚モスクだけじゃなくて、他のモスクも。はい。

アミン モスクがどういう場であるかっていうのを、中身のその誰がいるのかっていうのが。

アリアン そうです。

アミン 同世代の場合もあれば、親世代もいたりって、どういう人であるっていうのもあれば、物理的に建物としていかにきれいとか、そういうのも関係してくるっていう感じ。

アリアン そうですね、はい。

アミン はい、分かりました。マリクさんに少し、マリクさんの考える、マリクさんにとっての居場所だったりとか、モスクが居場所であるのかどうかっていうのを、お聞かせいただければ。

マリク そうですね。私の前の話では、結構みなさん、モスクが自分の居場所になっているという話だったんですけども、私からすると、実は逆にモスクはすごく行きにくい場所になっていて、私、新潟育ちなんですけれども、その時に地元でなかなかパキスタンとかムスリムの人がなかなかいない地域だったので、もともと外国人と触れ合うこともなかなかなくて、で、父は、よくモスクに行っていたんですけども、金曜礼拝だけで、母とか私のことを連れていくこともなかったんで、初めからあんまりモスクに行ったこともないっていうこともあったりして、その後に、高校生のときに埼玉の方に引っ越して、東京のモスク、東京ジャーミイに2回ほど行ったことがあるんですけども、やはり行くとどうしても一緒に来ている人が、お兄さんと一緒に来ているとか、旦那さんと一緒に来ているとか、そういう人たちが多くて、なかなか女性が1人で行く場所として、モスクが機能していないんじゃないかなということを感じて、自分は、兄もいないし、弟もいないし、父もいないので、なかなか行きにくいなということを感じて、その2回行った後、なかなかまた行けなくなってしまったということがあったのと、あと東京ジャーミイだと、改宗

ムスリマのために結構勉強会がやっているの、女性の方がちょっと他のモスクと比べると行きやすいってことはあると思うんですけど、でもそれでもやっぱり誰かと一緒に来ている人が多かったりして、話の中に、やっぱり誰と一緒に来たのとか、聞かれることも多くて、そこがちょっと答えにくくて嫌になってしまったということも、自分はちょっとあったので、なかなか行きにくいなっていう感じですね。

で、逆に自分の居場所としては、ムスリムとして自分の居場所がどこになっているかというと、大学とか大学院に来た留学生の人たちと大学で話し合ったりとかするときのほうが、居心地がいいかなというふうに感じています。

アミン ありがとうございます。僕は、男性として1人で行くようなもんだと思ってたので、全くそういったことがあったとは正直、初めて聞いたので、ちょっと驚いております。

グフロン 多分、ムスリムか、ノンムスリムかで行くときのプレッシャーが違うかもしれないですね。というのも、土日だと、平日もいらっしゃるんですけど、土日だと1人で来ている女性の日本人が本当にたくさんいらっしゃっていて、で、結構みんなその礼拝スペースの所でボーッとするんですよ。スカーフが置いてあるんで、そのスカーフを簡単に頭に巻いて、女性の人たちがボーッとしたりとか、女性は本当は2階なんですけれども、見学の方は、全然1階歩いていても大丈夫で、礼拝時間以外の場合は、本当に端っこのほうとかに座って瞑想というか、ボーッと写真撮ったりしてる方もたくさんいらっしゃっていて。

日本人にとっては、どうあるべきかとか、どうしなきゃいけないのか、ムスリムとしてとかいうプレッシャーがないので、東京ジャーミイも見学者に開いているので、特に何の気持ち悪さもなくて来て1人でボーッとできると思うんですけど、きっとムスリムにとっては、やっぱりムスリムだよなっていうので、きっとムスリムとしてモスクの中でこうあるべきだとか、例えば、ヒジャーブのこととか、誰と来たのかとか、そういうのでいろいろレッテルというか、ノンムスリムではないフィルターがかかってしまって、それが、やっぱりそうさせてしまうのかなと思ったんですけど、東京ジャーミイ自体は、本当はたぶん日本人の人とか、ノンムスリムの人とかが来ても、全然居心地はいいはずなんですよね。たくさんいらっしゃっているの。だからそういうムスリムに対する何ていうんですか、フィルターがきっとあるのかなっていうのを、今、感じました。

アミン レッテルだったりとか、フィルターっていうのは、ムスリム同士でかけ合っているってことですか。

グフロン そうですね。ノンムスリムの日本人が、こういうことをしていてもきっと大丈夫なんだけど、ムスリムの女性がモスクで、こういうことをしていたり、こういう格好で

来ていたら、どうしてみたいな感じが、多分あるのかなっていう。だから、自分も日本人だと思われることがあるので、そういうときは別に声掛けられないけど、例えば、ムスリムとしてそこにいるときに、やっぱりムスリムだよねっていうので、違った観点から会話が始まったりもしたりするので、子どもと遊んでいるときに怒られたこともあるし、そういう意味で、なので、そうですね。そういうのがあるのかなというふうに思いました。

アミン ありがとうございます。ちょっと今ので、英語なんかでは、サーベイランスとかってちょっと強い言葉を使うんですけど、ムスリムたちによるムスリムの監視みたいなものがあって、これはアメリカでの理論ですけど、女性が特に、男性よりも女性のほうがそういうのを社会的に担わされる対象にあるというような研究結果もあります。僕自身、女性じゃないので、どういうことが今、日本であるのか、マリクさんのお話を聞いて、ああそうなんだっていう感じなんですけれども、例えば、今のグフロンさんの話にも出てきましたが、例えばヒジャーブだったりとか、マリクさんもおっしゃっていた1人で行きづらさだったりとか、1人で行くものじゃないんだというのが、もしあるんだとすれば、いろんなレッテルだの何だのっていうのがあるかもしれないということですけども、ちょっと後ろに何人かのオブザーバーの方で女性陣がいらっしゃいますので、ちょっとその辺、ご意見いただければ。

ファティナ どうなんだろう。さっきのマリクさんの話を聞いて、あっ私も新潟育ちなんです、ちょっと親近感が湧いたんですけど、確かに新潟にはあまりムスリムがいなくて、そういう場に行けなかったのはあるなと思いました。ちょっと大人になってから東京に住んで思ったのは、私はこっちで1人暮らしをしていて、家族は海外にいるんですけども、やっぱり一番最初に仲間を探しにいったとか、友達を探しにいった場所が東京ジャーミイだったんですよ。

初めて日本に来て、一番最初に行ったのが東京ジャーミイ。なんか、何となく自分の中で、誰も友達とか周りに知り合いとかいないけど、モスクに行けば何か、きっといるだろうというのが、自分の中であって。なのでそんなに1人で行くプレッシャーは思わなくて、インドネシア出身ってさっき話したんですけど、インドネシアだと、モスクに行ってもあんまりムスリムはマイノリティーではないので、他の人に話し掛けるってあんまりなかったりするんですよ。自分たちの友達だけで完結しちゃうみたいな。

でも、日本では、やっぱりマイノリティーだからこそ、モスクに行ったときに、初めて顔を合わせた人と、あいさつしてどこから来たのとか、話が膨らんで、そこから何か友達になったり、知り合いになったりっていうのが、私の中では、結構、大きい出来事でした。だから、何か、一番初めに東京ジャーミイに行って、そういう知り合いができて、友達できてっていうのがあったので、他のモスクにもよく1人で行ったりというのは、あんまりプレッシャーは感じなかったかなと、個人差かもしれないんですけど、はい、結構、自

分はムスリムなんだから、モスクに行く権利はあるよねっていうだけの感じでしたね。多分、拒む人はいないので、そこは何か、自分の中でレッテルを貼ってしまっているかもしれないっていうのがちょっとあるのかなって思いました。

さっき、グフロンさんが言ったみたいに、東京ジャーミイはすごいオープンなので行きやすいし、むしろ新しい人と知り合える場でもあると思いました。他の女性陣がどういう考えなのかはちょっと聞きたいですが、私にとっては結構、仲間づくりとか、初めて会った人と話しやすい場所になっているのかなって思いました。

アミン かなりじゃあ個人差が女性の中でもあるのかもしれないと。

ファティナ そうですね。でも、基本的に拒むような、来た人を拒むような場所ではないのかなって思っています、モスクは。やっぱり来てみて話をしてみたら、意外とみんな受け入れてくれたっていうのが多かったですね。

アミン 例えば、僕の話になってしまうんですけども、僕も最初にモスクに通い始めた頃、大学生になってからですけども、僕は男性ではあるんですが、あるモスクに最初に行っていたときには、かなり居心地が悪くてですね、で、それはもちろん拒まれることは決してないんですけども、サイレントなプレッシャーというか、視線だったりとか、あるいは言語が違うだったりとか、何か、拒まれることは決してなかったんですけど、もしかするとそのプレッシャーの中には、サイレントなものも含まれているのかもしれないなって個人的には思いました、まああの分からないです。隣の例えば、■■■■さんとかどうでしょう。モスクに例えば、行きづらさだったり、行きやすさだったり、むしろ友達を探しにいくとかってというようなお話もありましたが、■■■■さんにとってのモスクってどんな場所でしょうか。

■■■■ 私は、まず背景で言うと、サウジアラビア生まれで、ちょっと日本を行ったり来たりしていたんですけど、幼稚園ぐらいから小学3年ぐらいまでは、日本で育っていて、そのときに家族が、トルコ人の方とすごく仲が良くて、トルコ人のコミュニティで結構育ってきたので、やっぱり東京ジャーミイには小さい頃から本当によく行っていて、日本に帰って来てからも、よくっていうほどではないんですけども、思い出の場所だったりして

いて。  
日本に中学1年生ぐらいのときに帰国して、そのときに、家の近くにモスクができていて聞いていたので、一度行ったことがあるんですけど、そのモスクが多分パキスタンとかのコミュニティで結構固まった場所で、すごく居心地が悪くて、1、2回ぐらい行ったんですけど、もううんざりしちゃって。一応、確か子どもの会みたいなので行ったと思うんですけど、何があったかという、何かそこが日本のノンムスリムの方の悪口の吐き場所み

たいになっていて、私からすると、私の祖父母は、普通に仏教徒なんですけれども、私はそれを尊重しているし、友達とかも日本でできた友達もそのときいて、私がちょっと違う格好をしていて、違う宗教であるにも関わらず、すごく声を掛けてくれて、興味を持ってくれる友達にすごく恵まれていたので、そういう人の悪口を言うようなのって、イスラムとしてどうなのかなって思ったのと、私自身が日本人の家庭で、日本的価値観じゃないですけども、やっぱりここは居場所じゃないなってすごく思っ

て。そこから結構、モスクって何なんだろうって思って、行かないようになってたんですけども、その中でも、やっぱり東京ジャーミイはさっきグフロンさんが言っていたように、大きくて、あまりコミュニティに依拠した感じの場所じゃないっていうのもあって、受験生のときとかに、フラッとちょっと東京来たたら寄ったりしてましたし、今でも千代田線がこの駅あるからちょっと寄ってみようかなと、フラッと行くことはよくあります。

なので、グフロンさんがおっしゃっていたように、東京ジャーミイは居場所、ちょっと落ち着くっていうのは、すごく分かりますし、あと、マリクさんが言っていた、その行きづらさっていうのも、私もちょっと分かるような気がして、東京ジャーミイに行くときも、私はどちらかというと、1人のほうが落ち着くときがあって、というのも、誰かと、特にムスリムの友達と一緒にいくと、やっぱりさっき言っていたようなフィルターみたいなのがかかって、あれ、          それでいいの、みたいな、じゃないですけど、ちょっと1人のほうが落ち着くかなっていうのはありますし、そういうフィルターがあって、そういう監視っていうのがあって、居心地が悪いっていうのも、すごく分かります。すいません、まとまりがなくて。

アミン ムスリムの友達と一緒にモスクに行ったときだといろいろ言われる。そのお友達にもいろいろ言われることがあるということですか。

           言われるっていうか、なんか、どう思われるのかなって。要は多分、自分の中でいろいろ考え過ぎて、一周回って面倒くさくなっているだけなのかもしれないんですけど。私のお話じゃないんですけど、もしかしたら小さい過去の記憶にそういうトラウマ的な経験をしたから、そういうふうにいるかもしれないんですけど、大塚モスクの話になってしまいうんですけど、確か、人から聞いた話なんですけれども、せっかく近くにあったから、入信したばかりの女性が、大塚モスクで礼拝していたら、いきなり、後ろから引っ張られて、礼拝中に、髪の毛が出ているって指摘されたって、それがすごく嫌になったって。入信したばかりの方だったので、イスラムってそういうもんなのみたいな感じに思ってしまったっていうような不安の声を聞いたことがあって。多分、私も覚えていない記憶のどこかでそういう経験をしたような気がしてっていうのがあります。

アミン ありがとうございます。

グフロン 今、その怒られたっていうので思い出したんですけど、前回の、今年のラマダーンのときに、イフタールを待っていたんですね、モスクの中で、東京ジャーミイの中で、そのときは、ジャーミイの職員じゃなかったんですけど。イフタールを待っているときに、おいっ子がいて、お姉ちゃんの息子なんですけど、おいっ子がお母さんのお迎えを待っていたんですね。僕と一緒に。で、おいっ子1人だったので、飽きちゃうだろうし、ずっとモスクに2時間いたら。だから折り紙を渡して静かに遊んでもらうようにしていたんですね。その前には、友達の幼稚園児がいたので、一緒に外で走り回ったりしていたんですけど、その後、友達が帰ってしまったので、じゃあ、ここで折り紙して待っていてということで、折り紙をさせていたんです。

僕はそのときに、クルアーンが読みたくて、モスクの中でクルアーンを読んでいたんですけど。おいっ子は隣で、折り紙を折っていました。そしたら、隣にいた、たぶんパキスタン系のおじさんが、あの。

アリアン パキスタンで謝ります。

一同 ハハハハ。

グフロン 多分、分からない、日本人かもしれない。外国人っぽい方が、何やっているんだっていうふうに言ってきたんです。で、最初はちょっとびっくりして、折り紙折っていますっていうことで、僕、クルアーンを読んでいますっていうことを言ったんですけど。「遊ばせたいんだったら、外に行かせなさい」って言われて、そのとき別においっ子はうるさいことしていないし、すごい静かにしているし、別に大丈夫かなと思って、あっすいませんっていうことで、そのままクルアーンを読み続けていたら、その10分後ぐらいに、何やっているんだっていうふうに怒られて、君は、日本人かって聞かれて、日本生まれのインドネシア人ですとかって言ったら、君はイスラムのことを勉強しないと駄目もって、みたいなことを言われて。ここは、モスクは遊ぶ所じゃないっていうふうに怒られたんですよ。

で、すいません。迷惑でしたかっていうことを聞いたら、迷惑とかそういう意味じゃなくて、モスクは遊ぶ所じゃない。モスクはお祈りする所で、クルアーンを読む所だから、こんなことをやらせちゃいけないみたいなこと言われて。でもそのとき、イフタールを待っている大人たち結構たくさんいるんですよ。みんなおしゃべりしているし、携帯いじっているし、全然ほんとに、寝っ転がって携帯バーツてやっている大人もいるし、「あの人たちは何をしていますか」って言ったら、あの人たちは、イスラムの話をしているんだっていうふうに、ああこの人に言い返したりフォローしても意味ないなというふうに思ったので、ズィクルというか、ずっと心の中で我慢していたんですけど、そうしたらずっ

とこう言われるわけですよ。イスラムの勉強をしていないから分からないんだとか、クルアーンの勉強をもっとしないとイケないとか言われて、もうずっとだまって、結局彼は、僕がこう他の大人たちの指摘をしたり、こっちの正論を言ったりした後にきっと諦めたのか、面倒くさいと思ったのか、結局、席を外したわけですね。

その後、「ごめんね」って、おいっ子に「怒られたの」って言われたから、「大丈夫だよ」っておいっ子に言っていたら、前に座っていたウズベキスタン出身の方が、来てくれて、「すいません、どこ出身の人ですか」っていうふうに声を掛けてくれて、「ごめんなさい。僕から謝ります」って言ってきたんです。彼は何を言ったかという、ムスリムとしてああいうことは本当はすべきじゃない、ああいうふうに叱るべきじゃないって言っていて、彼が言ったのは、あなたがもし日本人でノンムスリムで、それかムスリムに入ったばかりの改宗した人であって、こういうことをされたら、きっとイスラムのことを嫌いになるし、イスラムのことを誤解してしまうから、本当はああいう行動をするべきではなかったって言ったんですよ。

僕はずっと日本生まれで、ずっとムスリムだったので、いろんな厳しいムスリムとか、緩いムスリムとかっていうのが周りにいるので、全然、怒られたけど、そういう人もいるなっていうことで、受け取ったので大丈夫ですよっていうふうに言ったんですけど、その男性は、それを心配してくれて、僕から謝りますっていうふうに言ったんですね。

僕がそういう経験をしたっていうことは、きっと1年のうちに何人かがそういう経験をしていると思うので、だからさっきおっしゃっていたその引っ張られるとか、そういう新しいムスリムとか、ちょっと間違っているイスラム教徒に対して、何かこう厳しくしてしまうっていうのが、きっといろんなところであるんじゃないのかなっていうのを今、思い出しました。

アミン そうなのは、そうですね、まずウズベキスタン人の方がカッコいいなって、代わりに謝ってきたところですけど、そういった何か経験、まだおいっ子の方は幼稚園でまだまだ記憶に残るか残らないかっていうくらいだとは思いますが、そういった経験があるとちょっとモスクに、もしくはそのモスクに行きづらさを感じ始めたりとかっていうのもあるんですかね。

グフロン たまに彼を見るんですけど、アッサラーム・アライクムっていう感じで全然あいさつはしますが、人によっては、きっともうその人に会うのが怖くなるとかあると思いますね。僕に対しては全然こういう感じなんですけどね。なので、大丈夫なんですけど。多分、あんなことを言われたらきっと、自分も言われた後に、やっぱり断食中だったので、本当は我慢しなきゃいけなかったんですけど、おいっ子がちょっと怖がっていたのもあって、すぐにおいっ子のお母さん、お姉ちゃんに電話して、言ったんですよ、今、ちょっとモスクで怒られちゃったと。ただ折り紙で遊んでいただけなんですけど怒られちゃったんだ

よねって言ったのを、ウズベキスタンの人が聞いていて、それで来てくれたんですけど。そのウズベキスタンの人は、僕がお姉ちゃんに対して愚痴ったのを聞いて、ムスリムだったら、断食中にそういうことをしてしまうと、神様の命令は、断食が無効になってしまうかもしれないから、ああいうことをされても、できれば、お姉ちゃんにそういうことを言ったりとかしないで、自分の中でこう抑えようねとかいうふうに教えてくれたんですけど。そうですね、だから、自分でもこうあーってちょっとなっちゃうんで、普通の人だったら、きっと爆発していると思いますよね。

アミン 今、今までの話を聞いて、やっぱり女性だったりとか、改宗したばかりの方だったりとか、あるいはかなり、幼稚園児の方とグフロンさんっていう、次世代の若い方が何かしらの経験をしたというような話でしたが、シャヘレヤールさんの通っているモスクでは、結構次世代の方だったり、女性だったり、改宗者の方だったりとか、よく来たりはするんですか。

シャヘレヤール 一応、僕が通っているモスクは、女性用の礼拝室みたいなのはないです。群馬の方も埼玉の方も。子どもとかも、今、聞いていて、やっぱり女性のそういう場所っていうのもおかしいと思うし、モスクによってやっぱりちょっと違う。あるモスクもあれば、ないモスクもあるし、そのモスクなんかも、外国人のコミュニティでもう仕切っているだけで、そういう次世代の子どもとか、日本人向けにあまり受け入れていない所とかもいろいろあると思うんですけど、やっぱり、聞いていて、個人差はあると思うんですね。

やっぱり、僕も最初行ったときには、よく色々注意とかされていたんですけど、あんまり性格上、聞いてもあんまり受け取らない、そういう話は。自分はそういうのもあって。もともとは岩手だったんですよ。出身は、岩手なんで、モスクとかもあまりなくて、本当に、行くとしたら、イードの礼拝とか、本当に年に2回だけだったんで。あんまり関わりなかったんですけど、大学のきっかけで埼玉に来て、それでモスク通うように、それも金曜日の礼拝のために行くようになって、やっぱり最初は視線とかすごい感じて、みんなも新しい人来たみたいな感じで、すごいじろじろ見てきて、すぐ出て何かそういう感じで。そういうのもあって、だんだん、大学もいろいろあって、そういう時代も行ったりして、やっぱりいろいろ注意とかもされたりして、なにその髪の毛とか言われたりとか、よくあったりして。

でも、今は逆に自分は今、アルハムドゥリッラー、アッラーのおかげで1日5回、礼拝、モスクでやるんですよ、埼玉でも。家の近くに今モスクがあって、群馬のほうもマドラサの近くなので、1日5回はモスクでやる形になっていて。ちょっと離れても、仕事柄もそういうちょっと寄れるような感じで、モスクに寄る。自分的には、一つの責任みたいな感じがあるんですよ。行かなくちゃいけないみたいな。今の自分からして、モスクの立ち位置っていうか、行かなくちゃいけない。僕たちが行かないと、例えば、親世代の人たちが

モスク建てて、そのあとの世代の人たち来なかったらもうあとは建物だけになっちゃう。そういう意味で、そういう意味じゃなくても、他に、イスラム的な報奨もすごいっぱいあるので、だから行かなくちゃいけないとか思っていますね。

あと、現状とかも一応書いてあるんですけど、そういう言葉のギャップとか、すごいあって、子どもたちもやっぱり見ていると、すごいそういう飽きているんですよ。話とか聞いても、レベルも全然違うし、向こうはもうウルドゥー語で、すごい良い話をしていたとしても、子どもたちはもう普通に日本とかで育っているから、そういう話を聞いても、何か、自分には関係ない話をしているみたいな感じになって、いつも何かそういう何だろう、子どもたちもすごいモスク勉強しにきている子どもたちも、すごい飽きているというか、来たくないみたいな、多分、この人たち中学校とか高校行ったらもう来なくなるんだなって本当に思っていて、今の現状は。

だから、まず、そうですね。モスクの大切さを分かることから、各個人が分かることがまず必要。それがまず分からないと、例えば、よくネタで言う話があるんですけど、モスクでけんかがあった。俺、その人嫌いだからもうモスク行かないっていう人がよくいるんですよ。そういう人に、じゃあ、例えば、オークション会場でけんかになって、あなたはそこに行かないとか言わないでしょうって。自動車の業者、オークション会場に行っ、そこでけんかになっても、みんな行くんですよ、その後。でもなんでモスクのときだけ、行かない。お祈りして帰ればいい。別に会わなくてもいいじゃないって、そういうちょっと笑いかそういう話があつて。

基本的にそういうムスリムの集まる場所でもあるし、礼拝の場所でもあるんで、あんまりアドバイスとしては、気にしないで、自分の責任は、お祈りすることだから、別にお祈りして、あとは無理に、逆にそうですね、パキスタン人とか、やっぱり注意の仕方とかも、全然あつてないんで。ちょっと見ただけですぐ注意とかしてて。その人もすごい駄目なところがあるんです、見ててね、普通に。でも、それはあえて年上だから言わないんですけど。そういうのもよくあつたりして、だからあんまり耳を貸さないっていうか、でも、モスクに行かないことは自分に対しての損だと思っているから、だから、取りあえずモスクは行ってくださいっていう、今、いろんな人と会ってね、取りあえずモスクは行って、別にお祈りだけやって出ちゃえばいいじゃんって思うんで、って思ってます。

あとは、モスクのやっぱりちょっとにおい気になるとか、そういうのもあつたりするんで、場所によっては。ほこりとかすごいし、そういうのも何だろうね、やっぱり新しい人が来るとなると、ちょっと来づらいそういうところ。誰かそういうところに友達とか一緒に行くと、行くようになる、友達も結構いて、一緒に行つてあげると、1人だったら行かないけれど、一緒に行つてあげるといような、ちょっといろんなアプローチして、そうですね。モスクの大事さっていうのは今、伝えているんですけどね。

アミン 分かりました。そのさっきのにおいとかがほこりって言ったときに、何人が反応し

たのがちょっと面白かったです。共感する部分があったのか。

グフロン モスクって、どのモスクに行ってもやっぱり臭くって。ウドゥした後に…

シャヘレヤール そうそう。

グフロン そのままこういっちゃうから、あれどうにかしてほしいなっていうのは。

あと、思ったのが、東京ジャーミイって居心地良っていうのは、やっぱりこう大きい大通りの真ん中であって、誰でも入りやすいぐらい入り口が大きくて、窓が大きいし、光が差しているんですよね。だから入りやすいのかなって思うんですけど、他のモスクって、すごく入り口が狭かったり、入った後も、狭い階段を上って、その登った先のどこに行けばいいんだろうとか、入った後に窓がない四角い部屋とかに入った瞬間に、パキスタン系の人が来たりすると、ちょこってなりますよね。だから、コミュニティの問題とかなのかなと思ったりしたんですけど、建物として、建築としてどうなんだろうというのがありますよ。

一同 ハハハ。

グフロン 例えば、大塚モスクのコミュニティでも、もし大塚モスクが例えば、どこだろう、好きな場所なんですか、富ヶ谷とか渋谷のちょっといい所とかにあって、入り口が大きくて、窓が大きくて、外からも見えて、植栽がきれいで、緑がきれいでとかだったら、きっとそのコミュニティに自分が混ざらなくても、入っていこうよと、目線がどうかでも、お祈りは多分しに行ける。お祈りをする分には、気持ちいいだろうし、あそこの礼拝所に、ちょっとクルアーン読もうかなっていうふうになる気がするんですけど、僕がやっぱり大塚モスクに行きづら行って、きっと、大塚自体が、何だろう、ちょっと風俗のお店があったりとか、そういうのを通った後にたどり着いた先がすごい閉鎖的な大塚モスクの入り口みたいな。靴を脱いで、靴箱の上にいろいろ置いてあるし、入った後、女性の入り口はカーテンで閉まっていて、女性専用！みたいな、何かそういうのを通った後の礼拝所って、やっと着いたみたいな、そういう試練みたいな道のりだったりするので、そういうんじゃないくて、もうちょっと気持ちいい、何ていうんだろう、空気が通っているような建物とか環境だったら、きっと全然コミュニティが一緒でも違うと思います。

アミン モスクを今後どのような場にしていきたいかっていうので。あつ何かありますか。

グフロン あっあの、別に大塚モスクの悪口を言うつもりはなくて、大塚モスクだけに限らずね、いろんなモスクが。

アリアン いやなんかあの、大塚のなんだろう、次世代代表っていうのかな、何か謝りたいっていうのと、本当に、申し訳ないっていう。

一同 ハハハハハ。

グフロン 大塚モスクにそういうイメージがあったので、彼と知り合ったときに、何かすごい好青年だし、大塚モスク出身の男の子が、こんな社会的で明るい男の子がいるんだってびっくりしたんだよ。

シャヘレヤール 大体どこも同じだから、大丈夫。ハハハ。

アリアン いちパキスタン人としても、本当に何か申し訳ないことばかりでちょっと聞いて、で、ちょっと思ったのが、どのモスクも多分、東京ジャーミイの方もそうだと思うんですけど、個々のアイデンティティになると思うんですけど、イスラムとその国の文化を合わせて自分のアイデンティティとして捉えて、結構、中にはパキスタン人がすぐに注意しちゃうとか、多分これクセだと思うんですけど、もう血の中に入っているものだと思うんですけども、もちろん駄目なことなんですけれども、イスラム的に見ても、本当に、社会的に見ても。でも、そういうのが、その今、日本語をしゃべっているの、頭がちょっとこれもう皆さん経験があると思うんですけど、思考とかも全部日本人ふうになっていると思うんですけど、これをちょっとウルドゥー語でもし、ちょっと先ほどの話とか聞いて、指摘の仕方とかも、全然本当にだめだと思うんですけど。ちょっと理解しちゃった自分がいたんですよ。

それは、本当に駄目なんですけど、自分もそういう本当にしょっちゅう、注意されることがあるんですけど、そういうときは本当に、ああ、始まったみたいなパキスタン人のやつ、あるあるね、みたいな感じで、スルーするんですけど。やっぱりパキスタン人としての自分、そういう思考を持ちながら、何か接すると、結構、理解しちゃうんですよ。そういうことねみたいな。

なので、結構、今あるのは、第1世代と第2世代というか、第1世代っていうのは、彼らのアイデンティティっていうのが、日本とイスラムっていうのじゃなくて、日本とパキスタンとか、日本とインドネシアとか。彼らの、あるので、そこでやっぱりお互いに摩擦して、そういうことを自分も経験、結構注意されるっていう経験があるので、すごい申し訳ない気持ちっていうのと、本当に共感もできるなっていう。それは大塚もあって、自分も、女性の話もあったんですけど、大塚の女性で、自分が日ごろ思っているのは、大塚に来る女性で、2パターンって言ったほうが良いのかな。

結構、今、国際的になってはきてるんですけど、パキスタン人はパキスタン人で固まっ

てアラブ人はアラブ人で固まったりして、日本人は日本人で固まる。そういったふうになっているんですけど、ここでちょっと取り上げたいのは日本人の女性ムスリム。それも結構もうベテランで、僕が生まれる前よりもムスリムになったりとか、そういう方が多いと思うんですけど。彼らの会話にちょっと耳を傾けると、もう一文一文、インシャーアッラー、マーシャーアッラーとか、本当にもういろんな言葉が飛び交っていて、話す内容とかレベルとかが、大塚に通ってないと分からないような内容とかも本当にあって、初めて行った日本人、新しく改宗された方とか、そういったムスリムとしての年齢は長いけど、知識とかあまりない方が大塚のほうに行くと、同じ日本人でもやっぱりそこで差を感じちゃうっていうのは、本当にあるので、それはもう、ちょっとダイレクトじゃないですけど、遠回しにちょっと女性のほうにもそういったことを言ったことがあるんですけど、結構、もう雰囲気、環境というのが、もう本当に違うっていうのは、自分でも自覚しているんですけど、そういう問題がいろいろあるなっていうのは分かるんですけど、これから第2世代っていうのが、第2世代は、イスラムと日本っていう、この二つの文化を合わせてみんな共通しているものを持っているので、そういったところを、少しずつ減らしていけるんじゃないかなというふうには思いました。なので、スルーしてやってください。

一同 ハハハ。

アリアン すいません。ありがとうございます。

アミン すごい面白いなと思ったのが、最初のほうに言っていた。文化的なところ、注意するっていうのが、パキスタン人の血の中に入っているんじゃないかっていうことだったんですけど、それをだから多少なりとも共感できるのが自分の中に少しあるっていう。なので、もしかすると、次世代のかたがたの中には、もうかなり日本人化しているっていうか、日本人として、親の母国の文化を引き継がず、日本人として生きているからこそ、そこでの文化の衝突みたいな、同じムスリム同士でも文化の衝突があるのかもしれないなというふうにはちょっと思っ

アリアン そうですね。多分、第1世代と第2世代で、多分求めるものが違うと思っているんですよ。で、第2世代で私たちは、結構その、そこに行って仲間をつくったり、そこでの時間を楽しむっていうふうにしたほうがいいのか。ムスリムとしての自分を維持し続けるためのものとして使っている。

いろんな今、定義はあると思いますけど、モスクに対しての思いがあると思いますけど、第1世代でちょっと感じたのは、彼らは、例えば、パキスタンの話になるんですけど、パキスタンのモスクって、行って礼拝して終わりみたいな。それが典型的なパターンで、そこでそのコミュニティをつくるとか、そのコミュニティ形成の中心となる場所として扱わ

れてないっていうのはあるので、なので、モスクに行ったら礼拝してクルアーン読んで、それ以外のものは駄目みたいな。それがあるので、だから、モスクに対して求めているものが、彼らがしてきた文化とか、彼らの文化をそのままここに持ち込んで、そこでちょっと勘違いしているっていうのはあると思うので。このもう一つの、ちょっと例を言いますと、大塚と東京ジャーミイのほうですね。東京ジャーミイで、結構名古屋のほうのモスクもそうなんですけど。あるモスクは、名前は言いませんけど、言っているのかな、名前。いいですか、春日部モスクっていう。

アミン 春日井？

岡井 春日井、春日部は埼玉だ。

アリアン 春日井モスクっていうモスクがあって、結構、多分、名古屋出身だと思うので、分かると思うんですけど、閉鎖されたっていうか、もう女性の女の子たちも、そこへ行くと、本当にイスラム系になって、日本の社会と溶け込めないような、結構そういった、悪名高いうえには言いませんけど、そういった文化があるんですね。

でも、他のモスク、例えば、名古屋モスクとかは、結構そういう女の子とかも来て、女性も来て、で、男性も、本当にあの、若い世代なんですけど、お互い一緒に座って、で、何かその問題とかあったらシェアして、そういった会を催しているんですけど。そこで求めるものが違うっていうのが何かっていうと、自分の親戚なんですけれども、おじさんがいて、おじさんは春日井モスクのことすごい称賛してたんですよ。なんでなのかなって思って、それと全く同じものが東京ジャーミイにもあるなと思って。東京ジャーミイってパキスタン人も、本当にピュアなパキスタン人からしてみると、パキスタン人だけじゃなくて、結構それは、いろんなバングラデシュ人とか、他にもいろんな方がいると思うんですけど、東京ジャーミイって活動がないみたいな。今、結構活動があるんですよ、いろんな活動しているんですよっていうふうに言ったじゃないですか。

でも、それは、第1世代からすると、どうでもいい活動というふうには、僕は大事だと思っていますけど、彼らからするとどうでもいいっていうふうになるんですよ。春日井もそうなんですけど、春日井は、すごいイスラミク知識をすごい詰込んで、だから、ちょっと偏ってはいますけど、女性は、中学校以上は駄目みたいな、そういった文化も、中学校以上学校に通っちゃ駄目とか、そういった文化があるんですね。

でも、それ第1世代から見ると、それがすごい良くて、それは好評で、日本という社会の中でイスラミク知識を得られて、イスラミクとして、ムスリムとしての自分を形成できているって思っているんですよ。でもそれは、ハーフとかだったり、日本人からしてみたら、それはもうすごい偏っているもので、それが全く同じで大塚と東京ジャーミイもそうなんですけど、大塚って、結構、本当に僕もそうなんですけど、10年前からクルアーンとか、ク

ルアーンの勉強を本当にガチ勢でやったりとか、あとは他の幼稚園とかもそうですけど。そういうのがあったので、第1世代、本当にパキスタン人とかだったり、そういったかたがたからすると、大塚のほうが輝いて見えちゃうんですよ。

でも、東京ジャーミイは、彼らにとって利益のある活動っていうのはないんですけど、第2世代に関してはあるんですけど、第1世代から見ると、利益のある活動って何もないなっていうふうに思っちゃうんですよ。最近で友愛っていうのが始まりでしたが、それで結構、生徒は集まったと思いますけど、ちょっとずつ来てるなというふうに、彼らはそう思っていると思うんですよ。それが全く同じような、名古屋もそうで、そういった求めるものが違うっていうのがあるので、なので、これから少しずつ日本とイスラムっていう共通したアイデンティティがみんな持ち始めることになると思うので、それで結構、みんな同じ立場になっていくんじゃないかなというふうに思います。

アミン そもそも親世代と次世代が求めているモスクの機能っていうのがそもそも違うと、根本的なところが。

アリアン はい。

アミン 求めているものが全然違って、次世代には輝いて見えても、全然そうじゃなく親世代は思っていたりっていうことですね。具体的にじゃあ、どういう場にしていきたいなというふうに思いますか。

アリアン 具体的には、知識とかそういった面もそうですけど、もちろん。みんなが最終的な目標っていうのは、イスラム教としての自分、よりよいムスリムになって、最終的に天国に行く、よりよいムスリムになるということなので、知識とかそういった面はもちろんそうですけど、それ以外で、もし言うのであれば、先ほどから何回もありますけど、コミュニティの形成場所っていうふうなことで、日本っていうノンムスリムのマジョリティーの国の中で、マイノリティーとして生きていくので、お互いの絆を結ぶための中心の場所というふうな、本当に単純な定義ですけど、そういう場所にしていきたいというふうな。あとは、結構、これは自分でも葛藤しているんですけど、ムスリムとしてのアイデンティティと日本人としてのアイデンティティ、この二つがみんな共通して持てるような環境、他のパキスタンとかインドネシアとかそういうのはもちろん大事ですけど、それはいったん置いておいて、それも加えていいんですけど、日本人とムスリムっていうこの二つのアイデンティティをみんな持って、かつ、ノンムスリムの日本人にも受け入れられるようなそういう場所にしていきたいというふうに思っています。

アミン なるほど、仲間との出会いの場だったりとか、あるいは日本の改宗者の方、もし

くは日本人として生きている第2世代だったりとか、にとっても居心地の良いモスクっていう感じですね。マリクさんにもちょっとお伺いしたいんですけど、モスク自体にはそんなに回数的には多くないかもしれないですが、モスクに担って欲しい機能、モスクがどういう場所であってほしいかだったりとかっていうのを少しお聞かせ願えますか。

マリク そうですね。大体、いろんな話を聞いていて、モスクの雰囲気ってパキスタン人とかがよくラマダーンのときに集まってイフタールをしたりするんですけど、そのときの雰囲気にすごく似ているものがあるんじゃないかなと思ったのが、一つあったんですけども、その中でも、やっぱり女性たちがお互い集まって、相手の服装であったり、いろんなことに対して、あれはムスリムとしてよくないんじゃないかとか、こうしたことは、ムスリムとしてやるべきことなんじゃないかって、他人のことばかり見ている気がしているので、何か、もうちょっと自分に目を向ける場っていう所としてモスクがあるべきんじゃないかなと思ったのと、もう一つとしては、知り合いの中にも、結構ムスリムの方と結婚した日本人の方とか結構いるんですけども、最初はもっとイスラムのことを知ろうと思って、好奇心旺盛に行くんですけど、行ったところで、いろいろ何かこんなことも知らないのっていうので、批判されたりとかして、なかなか行きたくなくなってしまったということが結構あったりするんです。

アミン それは、ノンムスリムの女性。

マリク ノンムスリムの方が後で改宗したっていう場合と、あとは第2世代の子で、よくイスラムについてあんまり分からないから勉強しに行こうと思って行くけど、そこでいろいろなことを批判されてしまって、なかなか行きたくなくなってしまったっていうことが、よく話で聞いていてあるので、何か、モスクに行く人たちが、もうちょっと緩い視点っていうか、緩い考え方で、分からないから勉強しに来てるっていうところをもうちょっと見つめたほうがいいかなって。そういうことを分かっていたら、勉強しに行かないかもしれないけど、分からないからもうちょっとイスラムに近づきたいと思って行っているのに、批判されちゃって行けなくなるととってももったいない気がするので、もうちょっと何かその人の努力っていうもの、気持ちっていうものを、もうちょっと尊敬できるような態度でいたほうがいいのかと思うってしまったのと、あとよくモスクではない場所なんですけど、ムスリムの方と話をすると、男の子は日本にいて日本の学校に行ってもいいけれども、女の子は、ある程度の年になるまでパキスタンに送ってしまったりとか、親族に育ててもらっているケースもよくあるんですけど、そういうのを聞いていると、やっぱりお母さんの気持ちとかを全然考えていないなっていうところが、すごい自分としては、ちょっとおかしいんじゃないかなと思うので、もうちょっと戒律とか、そういうこういう教えがあるっていうところに、厳しくならずに、気持ちっていう面を尊敬できるようになったほう

が行きやすい場所になるかなとは思いました。

アミン イスラムに興味を持ってきてせっかく来てくれているのに、あまり良い態度、ウエルカムな態度でないともったいないということですよ。あとは女性に対しての開かれている場なのかという、大きなことだと思うんですが、ちょっとそれについて深くいく前に、リームさん、せっかくエジプトのモスクと日本のモスクの考え方、両方をご存じだと思うので、そこでの違いだったりとか、共通点だったりとかをお聞かせ願えますか。

リーム ありがとうございます。正直私、日本に来てからのほうがモスクに通っている程度が多くて、エジプトだったらどこでもモスクがあって、自分のうちの下にもモスクがあって、本当にどこでもあって、基本的にはラマダーンだとみんな集団で、礼拝に向けて行くんですけども、別にその礼拝のためとか、あつすいません。一つ追加しないといけない。子どものとき結構、モスクっていうよりも、ダール・タフフィーズ・クルアーン。クルアーンの何か専門学校にずっと通ってて、夏休みになると、ずっと通ってて、そこでクルアーン勉強してたんですよ。それが基本的に日本と大きく違うのは、コミュニティ、自分のアイデンティティを見つけに行くというよりも、クルアーンを学びながら、language schoolにも通っていたので、宗教を捨てずに言葉を覚えたりとかっていうふうに私の親が考えてくれて、そういう教育を受けてきたんですけども、日本のモスクとどう違うかという、まず日本のマスジド、あちこち足を運んでいくと、いろんなコミュニティがあります。

先ほど話を聞いて、大塚に行きますと、基本的にパキスタンのコミュニティが強くて、目黒の小学校で集まりがあるじゃないですか。そこでもモスクができた1年前にできて、そこにも足を運んだりとか、あちこちのマスジド、行っていたのは、いろんなコミュニティを見に、自分にとってすごい気分転換になってる。

あと、日本の中で、やっぱり自分はムスリマだっていうアイデンティティを忘れずに強めるために行って、楽しみながら行って、全くそういう気持ちにならなかったことがないので、女性ムスリマが1人で行くのは、拒まれたり、いろいろ聞かれたりする気持ちは全くなかったんで、今、話を聞いて、やっぱり違うなと思って、多分、外国人が来ると、日本生まれ育ち、片方の親が日本人、半分日本人、半分外国のアイデンティティを持つのと、全然違うところというふうに聞いて驚きました。

話を戻しますと、エジプトのマスジドは、基本的に何か、色がそんなに、色が豊かって言えないんですね。そんなに(聞き取り不可)が多くなくて、基本的にエジプト人がエジプトのマスジド行くっていうのはあって、エジプトの場合は、そんなに女性は必ずしもマスジド行って、集団礼拝しようっていう考えは、イスラム的にも、そんなに別に女性は行かなくちゃいけないっていうことはないから、そこまでは行ってなくて、でも、クルアーンの覚えには行ってました。礼拝所としてじゃなくて、クルアーン覚えに行っていたのは

長かったんですね。日本のマスジドに行ってるのは、違う目的で日本におけるイスラム世界を見つけ出しに行っていたのと、あと自分のアイデンティティを忘れずにいっても、イスラムのアイデンティティを強めるために行って、非常にあちこち行って楽しんでいます。そういう裏話、コミュニティ同士のけんかとか、そういう世界はあんまり私には見えていなくて、楽しんでいます。

アミン 例えば、パキスタン系とかインドネシア系とかっていうのをむしろ楽しむっていう。

リーム そうですよ。私、外国人同士の話聞き合うとか、ラマダーンときは温かい気持ちを感じるだけなんです。多分、いろんなコミュニティに話し合っているから、最初からそういうあまりけんかの話は、多分、出ない。普通の流れだと出ないですね。修士課程のときは、日本におけるイスラム教徒が直面する問題について、研究ちょっとしていたんですけども、そのときはアンケートとか聞き取り調査のときに、日本で直面する諸問題について聞いて、そのときは本音出してくれたんですけど、でも、マスジドにおけるいろんなコミュニティ同士の、その押しつけなどの話はあのときは出なくて、どちらかというと、日本におけるハラールフードはなかなか見つからないとか、礼拝所は非常に欠如しているとか、そういった大きな問題。あと、結婚相手が見つからないとか、そのような問題は、調べたときはそのような問題が出てきていたんですけども、自分自身は、こうやって押しつけられたり、逆にどちらかというと、ボーンムスリムとして見られているから、そんなに教えられるほうじゃなくて、逆に教えてみたい立場にはなっているということもあったと思います。

アミン 日本で生まれ育った方とそうでない方で、もしかしたら違いがあるのかもしれないですし、そうですね。何かちょっと女性の話が結構上がってきていますが、例えば、アメリカなんかとかでは、かなり大きな運動になっていて、女性、なんていうんでしょう日本語で、要するに何が起きているかということ、女性がモスクに行ってもウエルカムされているというふうには感じないというのが、かなりかなりものすごい問題視されていて、北米における大きなイスラム団体とかが、確か2015年だか何だかに、もう全国というか、北米全土のモスクに一つの共同声明文みたいなものを、ISNAとICNAとMSA NationalとMuslim Student Association、要するに北米の巨大な団体大体全部が、一緒になって、共同声明文みたいな形で、女性をもっとウエルカムしてください。簡単に言うと、女性をもっとモスクでウエルカムしてください。今の状態はおかしいですっていうような共同声明文を出して、かなり大きな運動になっていたり、ドキュメンタリーが作られていたりっていうのが何年かずっと起きていて。

その中で幾つか、その女性がなぜウエルカムされていると感じないかっていうのがある

んですが、例えば、ある女性の活動家で、サイドエントランスっていうウェブサイト作ったのご存じの方いらっしゃいますか。サイドエントランスっていうウェブサイトを作って、彼女が何をしたかっていうと、女性の部屋と男性の部屋の違いが気になると。かなりオブラートに包んで言いますけれども、女性のサイドエントランスっていうのは、女性の要するに、大体モスクにおいて女性の入り口っていうのは、もう横にちょっと非常口だったりとか、何かちょっと怪しい階段を登らされたりとか、部屋もものすごく汚かったりとか掃除がされていなかったりとか、向こうで話題になるのが、隔たりがすごく気になるっていうのがよくありますね。ある時期を境に隔たりが、男女の隔たりが、壁とかっていう形で徐々に増えてきて、それを問題視し、そこでの法学としては、それはイスラム的に必要ないんだっていうような見解を出す人たちがいて、もちろんそうじゃない見解の人も相当数いるんですけど、日本におけるモスクにおいて、男女の扱われ方の違いってあると思われませんか。どなたか、もし。

グフロン 関係ないかもしれないんですけど、モスクツアーとかやっていると、まず絶対にある質問が、なんで男女分かれているのって聞かれるんですよ。男性が下で女性が上ってなんでっていうふうに聞かれるんですけど、僕、そういうふうに聞かれたときに、答える方法が、神様の前で礼拝をするときにやっぱり集中しなければいけないし、男女一緒の所で礼拝すると、異性がいるというので、気持ちが集中できなかつたりするし、女性も男性がいたら気にしてしまうとか、やっぱりスジュードするときとかに、気にしてしまったりもしてしまうので、それでお互いに気にせずに神様に対して集中して神様に礼拝するために分かれていて、女性は男性も気にせずに2階という特等席で、きれいな景色を見れる席でお祈りできるんですよっていうふうに言うんですよ。

大体、日本人は最初、男女差別みたいな感じで男女別にしているのかなっていうことで質問してくるんですけど、それでそういうことを言うと、結構、ああ、そっかそっかという感じで。ジャーミイの場合は、男女の入り口、女性は右からも入れますけど、真ん中からも入れて、特に壁もなくて、その理由としては、ちゃんと集中できるようになっていうことで、上下分かれているんですけど、モスクによっては、やっぱり女性が完全に見えないように壁でボンっていうふうにしてしている所もあったりして、それはちょっとこう思ったんですけど。

アミン 分かりました。あとはその女性の礼拝室が、さっきシャヘレヤールさんが通っているモスク二つともないっていうことだったんですが、例えば、またアメリカの話にはなってしまうんですけど、それもまた問題視されていることの一つとしてされていて、その女性はモスクに行かないでもいいんだというような見解ももちろんありますが、コミュニティの中心としてモスクに通いたいだったりとか、他のムスリムと出会いたいだったりとか、そこで子どもに勉強させたいだったりとか、いろんな思いがあり、それこそ礼拝

以外の社会的な機能も期待してモスクに行くけれども、あっ、ちなみにさっきのサイドエントランスってあれを始めた、ヒンド・マッキさんって女性の活動家は、ずっとモスクを居場所として感じていたけれども、ある日行ったモスクで、お祈りしに行ったら、女性は入れませんというふうに言われて、それにかなり怒りを感じて、このあれを立ち上げてものすごく大きなことになったのですが。シャヘレヤールさんの通っているモスクには女性の礼拝室がないってことですが、さっき、アリアン君、そしてマリクさんに今後の日本のモスクのあり方がこうあってほしい、こう変えていきたい、ここは変えたくないっていうようなところも、もちろんあると思いますが、シャヘレヤールさんとして、今後のモスクはどうあるべきかっていうのを、女性のこともちょっと含めてですね、ご意見伺えれば。

シャヘレヤール 僕が行っている、一応、法学の問題がどうしても出てくるので、それはもうみんなに話をしたら長くなっちゃうので、あとで個人的に聞いてもらっても、大丈夫ですので、法学もちょっと絡んでくるんですよ、それが。学者の意見もやっぱり分かれているので、モスクのやっぱりちょっとそういう思考というか、そういう考え方も変わってくるので。でもパキスタンとか、そういうムスリムの国では、男性はモスクに行って、そういう交流する場があって、女性はそれ以外にもたくさんコミュニティってというか、そういう集まる場所みたいなものがあるんですよ、何か、他にも。だけど、日本っていう場所はもう例えば、そういうモスクは男性だけ来るってなったら、女性は本当に居場所ってのが、日本人ムスリムの中でも、男性よりも女性のほうが多い。その人たちのために、モスクは駄目ですよって言ったら、本当に彼女らの居場所がなくなってしまふ。

だから、そういうちょっと工夫するっていう意味で、今、一応、一ノ割とかそういう群馬のほうでは、誰かの家とかで、毎週そういうプログラムとか、そういう女性向けのね、モスク以外の場所でそういう集まりみたいなものやってるんですね。

もうちょっと僕が思うには、分かりやすく、そういうちょっと家だったら、行きづらいとか、誰かの家、アットホームですごい結構いいって意見もあるんですけど、逆によかったっていう。でも、いきなりそういう所に行きたくないっていう人たち向けには、僕的には、スタイルとしては、御徒町か、トルコジャーミイが、ちょっとこれからいいかなって。そういうモスク以外の場所でちょっとそういう交流じゃないけど、何かそういうスペースみたいなものがあるって。御徒町だったら、1階のそういう何か、モスクとは別にあるんですね。モスクは例えば、本当にお祈りの場として、それ以外は、他の場所でするっていうか、そういう場所ができれば問題ないかな。

そういう場所で女性の方もこれから、僕は男性がメインで今そういう活動をしているんですけど、女性の2世の子のほうは圧倒的に多くて、どうすればそういう人たちがもうちょっと交流して、イスラムの知識とか、信仰深めるようになるかっていうのを、やっぱりすごい考えていて、そういう意味で、今、思っているところでは、そういう御徒町とか、

何かそういう場所を用意してあげる。家とかよりも、イスラミックセンターみたいな感じでやってあげると、そういう2世とかの人たちもそうだし、日本人向けにもなる、入っていきやすいとか、いろいろ常に。他のモスクだったら、イマームも大体、日本語分からない、基本的に。誰か日本人がいきなり行っても、イスラムのこと教えてくださって言うても、誰も対応できないっていうのが、現状で。そういう常に誰かがいて、対応できる人っていうのがあると、そういう意味で、御徒町とか、トルコジャーミイとか、神戸とかも強いんですよ、やっぱり行きやすい。パキスタン人とかそういう親世代の人たちはあんまり活動分かっていないけど、でも、逆にそういうモスクはあんまり日本人の人たちは来ない。そういうがあるので、僕の今、そう思うスタイルとしては、やり方としては、何か、そういうスペースを用意してあげる。

例えば、そういう工夫、法学のほうでもちょっと問題とかいろいろあるから、それで争う必要はないし、それで。それよりも何か工夫して、そういう同じような場所をつくってあげれば、それで解決するんじゃないかなって。それが、御徒町とかトルコジャーミイとか、うん、思います。そういうスペースがあると。

アミン モスクのスペース以外でのスペースというのは、男女共通して若者だったりとかにっていうこと、女性をモスク以外の所でっていう。

シャヘレヤール いや、モスクの隣にでも、中でもいいけど、建物の中にそういう部屋とか。

アミン 女性のために。

シャヘレヤール 女性のためとか、男女もこれは個人の本当はあれなんですけど、気を付けなくちゃいけないっていうのは、普段でも、例えば、そういう男女と一緒にいる場っていうのは、日本では普通にあるんです。そういうときに、じゃあ、その女性が出ているから駄目とか、そういうことを言っていたら、日本で生活していけない。

だから、大事なのは、自分がまずそれを気を付けること、目を伏せたりとかそういうことを男性も女性ももちろんやっていくことが、それがもちろん重要、大事なんですよ、そういう場所で。ちょっとデリケートなんですよ、そういうのは。だから、そういう、柔軟に対応するためにちょっとそういう工夫っていうか、学校の問題もまさに、それもすごい大きい問題だと思うし、かといって、それがそのデリケートっていうのも現実なんで、それもだから、みんなには分かってもらいたいっていうのはあるんですよ、そのデリケートな部分。

だから、アリアンが言った、春日井のモスクも少しそういうイスラム過ぎるっていう傾向、それもまさに分かるけど、そう言いたいこと。かといってそれが要らないって言った

ら、そういうわけでもないし、それもそれであっていいし。トルコジャーミイはトルコジャーミイであって僕はいいと思うし、御徒町、そういう感じで、何か、何だろうね。自分、そういう総合的な、何かそういう場があればいいんじゃないかなって、そう思いますね。

アミン 分かりました。先ほど、モスクに若者があまり来ないっていうのと、あとは、中学生以上になったら、もうこの人たち来ないだろうなっていうふうに思うとかっておっしゃっていましたし、そうなったらモスクは建物だけになってしまうというようなこともおっしゃっていましたが、若者たちがモスクに礼拝の場としてだけではなく、モスクに社会的な機能も期待するべきだと考えますか。それとももう礼拝の場として使ってもらって、あとはモスク以外のスペースで、モスク以外の場で、何かちょっと充実させればいいと思いますか。

シャヘレヤール モスクはもう預言者さま、サッラッラーアライヒワサッラムの時代から、礼拝の場だけじゃなくて、他にもたくさんの活動があったんですね、モスクの中で。だからそれは、全然あっていいと思いますね。モスクの中でも社会的援助とか、そういうものがあったりとか、あと結婚とかもまさにモスクの中でやってきていたものだし。そういう意味では、2世とかも、彼らのためにも例えば、そういう2世、大体会っていると、あんまり社会的なことで悩んでいる人は少ないんですよ2世で。むしろ第1世代の中で困っている人、ビザの関係とか、仕事の関係とかで、むしろそっちのほうが困っているというのが現状。若い人たちは、逆に、モスクの必要性というか、あんまり人混みは嫌だとか、そういう感じの話とか聞いたことがあるし。あと、やっぱり言葉が分からないとか、通訳する日本語のあれがないとか、そっちのほうが問題になっているので。そういう社会的な問題、もちろんそれは必要だと思います。いろんな意味で援助っていうか。大塚みたいに、マーシャーアッラー、ああやってサポートするのもすごい大事だし、いろんな活動っていうか、モスクのそういう礼拝の場、もちろん礼拝の場なんですけど、それ以外にもたくさんのことが可能なので、そういうのはもちろんやっていったほうがいいと思います。

アミン ありがとうございます。ちょっとこの後、休憩になりますので、一つだけ最後にグフロンさんにも今後のモスクのあり方だったりとか、モスクはこういう場であるべきだ、だったりっていうのを、ご意見お願いします。

グフロン お話を聞いていて、思ったのは、モスク2種類あって、第1世代的なモスクと第2世代的なモスク、2種類あるのかなって思ったんですけど、第1世代的なモスクって、いかに日本の社会の中で、染まらずにムスリムとして生きていくか、みたいな、どちらかというところと排除っていう考え方が強いと思うんですよ。

それってモスクだけじゃなくて、実は友愛に通っていたときも、その第1世代の教師が

ほとんどだったんですけど、第2世代は僕しかなくて。第1世代の教師は、いかに子どもたちが悪い影響を受けずに日本でムスリムとして成長するかっていうことに専念していて、なので、自然とやり方が、あれは駄目で、これは駄目で、これは良くないから、駄目駄目駄目って感じなんですよ。

やっぱり日本生まれの子どもたちにとっては、友達はみんないい人だし、楽しい仲間だし、だからそういうことを言われることの意味が分からない。日本人もヒジャーブ着けてなくて、お祈りしないだけで、ムスリムのような人たちばかりだから、そのどこが悪いんだっていうふうに思ってしまうわけで、きっとその1世代的なモスクって、排除の精神がちょっとあるから、だから第2世代の自分たちとしても、第2世代の自分たちは、日本に生まれているわけですから、どちらかという日本人なわけですよ。だから、その日本人を排除しようとしている団体の中に、首を突っ込むとやっぱり居心地が悪くなるのは当たり前で、それが居心地の悪さに出るのかなっていうふうに思いました。

で、2世代的なモスクっていうのは、東京ジャーミイってどっちかという2世代的なモスクで。彼らがやろうとしているのは、ノンムスリムをいかにしてモスクに連れて来るかっていうことをやっているんですよ。

それで、モスクは大きいし、有名だし、だから礼拝をするムスリムは、1世代、2世代関係なく、きっと来るんですよ、東京ジャーミイには。活動とかがなくても、礼拝したかったら来るし、金曜礼拝来るし、だからもう既にイスラムのことを分かっている程度理解してるムスリムには、特に何もしなくても来るだろうとあっていて、だから彼らがやらなければならないことは、その日本一大きくて、きれいなモスクにして、そこを入り口として、ノンムスリムの日本人とか、あとはちょっとムスリムから離れそうな若い人たちが、来れるようなきっかけづくりをいかにしてやろうかっていうのを考えているわけですね。なので、どっちかというダーワ、ダーワのためのモスクというか。もちろん礼拝のためにも来れるし、だけどやっぱり役割としては、イスラムの入り口として、日本で輝くモスクっていう感じのイメージがあって、僕もそこでいろいろ質問を受けたり、説明をしたりとかするんですけど、別に僕も普通の格好をしているし、普通の日本語で流ちょうに話すし、全然普通なんだよっていうのを、そこで入り口として人と話したりもしますし、お花の仕事もおかしな話になるんですけど、お花も結構、モスクの中でお花の装飾あるんですよ。偶像崇拝禁止だから、イスラム的にお花の装飾とか、カリグラフィーが発展したので。お花とか植物自体も天国の、楽園の象徴だったり、神様の創造物っていうのもあって、僕はお花を通して、ダーワをしたいと思っているんですね。

だからモスクでワークショップとかっていうのもやるんですけど、何かそういう間接的なやり方で、東京ジャーミイは人を呼んでいて、それがこうノンムスリムとか、ノンムスリムに対して居心地がいいっていう感じのモスクは、絶対に第2世代に対しても同じように働くはずなんです。もしその全然イスラム知らない人が、居心地いいって感じるんだら、イスラム知ってる人はもっと居心地いいって感じるだろうし、なので、居心地が

いいモスクっていうのは、きっとムスリムだけではなくって、知識のある人だけでなくって、本当にいろんな人が入れるような場所なのかなって思いました。

今の時代、インターネットとか書籍たくさんあるので、勉強したいと思えばYouTube 見たりとか、取りあえず検索したりとかできるので、別にモスクに行かなくても、本当は知識って集められて、何のためにモスクに行くかって、やっぱりそのきっかけのためなのかなって思ったんですけど。やっぱりインターネットとかで調べて、YouTube とかで見て、イスラム気になった人が、じゃあ、実際にムスリムの人に会ってみたいとあって思ったときに、きっとモスクにやって来て、イスラムの人を知って、クルアーンを実際に手に取って、感動したり、影響を受けたりっていうことがあると思うので、僕はこれからの日本のモスクは、もうちょっと、もう出来上がったムスリムが自分たちを守るために活動する場所ではなくって、出来上がったムスリムを中心に、まだ迷っているムスリムとか、これからムスリムになりたいと思っている人たちがきっかけになるような場所になってほしいなっていうふうに思います。

アミン 非常に将来性を感じるかついいお話を、東京ジャーミイがさらにおしゃれになってくる感じ、グフロンさんの手によって、分かりました、ありがとうございます。ここから3時半頃までですね。3時半からまた第2部を開始しますが、礼拝の時間であったり、後ろに飲み物だったり、お菓子もありますので、ご自由にお飲みください。会議自体は5時頃に終わる予定ですので、そのときに礼拝されたい方はそれでももちろん構いませんが、一応、休憩と礼拝の時間とさせていただきます。また、3時半にお戻りください。

店田 ハラールのお菓子が置いてありますから、ハラールのお菓子しかないですから。

アミン あと、簡単なアンケート今、ここに置きますので、休憩の間にですね、オブザーバーのかたがたは、ご記入いただければと思います。お願いします。

(第1部 終了)

## 第2部 モスクの外の居場所について考える

アミン はい、皆さんお戻りいただけたと思いますので、第2部を始めさせていただきます。その前に、最初に皆さん自己紹介をオブザーバーの方にもしていただいたんですけれども、その後いらっしゃった方にも。

カリール 3人。

アミン はい、3名いらっしゃるとのことなので。中村優平君から自己紹介と、今、モスクの現状と課題だったりとかっていう、次世代の視点から語っていたので、もしそれについて何かあればお願いします。

中村 中村優平です。本日はというか、福岡出身で3日前に上京しました。よろしくお願いします。モスクの課題としては、私が住んでいる地域では、パキスタン、バングラ系、南アジア系の方のグループと、アラブ系のグループと、マレー系のグループの、三つのグループが多分、言語の壁とかがあって、うまくコミュニケーションが取れない、かつ、やっぱり自分たちのイスラムの実践の仕方が、やっぱりみんなにとって一番いいものだっていう思いやりから、その三つのグループがお互いのこれが一番いいんじゃないかなみたいな感じの思いやりが逆に、何ていうんですか、お互いを否定してしまう部分とか、何かちょっと決裂している部分がちょっとマイナスに出る部分があるのが、私の地域で感じることです。でも、はい、楽しいです。はい。よろしくお願いします。

アミン よろしくお願ひします。梅田ユミコ様で大丈夫ですね。

梅田 はい。アッサラーム・アライクム・ワラフマトゥッラーヒワバラカートッフ。皆さんこんにちは。梅田ユミコと申します。私は、今年の3月に大学を卒業しまして現在、社会人1年目のIT業界で働いております。アウファちゃんをご存じの方いるか分からないんですけれども、友達です。

グフロン あっ、アウファの兄です。

梅田 きょうは、初めてお会いするかなって思っています。

グフロン 今、ジャカルタに。9月末に帰ってきます。

梅田 はい。本日のヤングムスリムの課題について感じていることは、私は千葉の船橋市

に住んでいるんですけども、自分の住んでいる所から近いモスクですと、西千葉にあるモスクなんですけれども、そこにときどき行ってまして、お母さんがそのムスリムの女性のリーダーというか、まとめる役をしております、私もお手伝いで参加させていただいているんです。

そこでは、インドネシア人が日本人の男性と結婚して、その旦那さんのイスラム教に改宗するっていうことが結構、いらっしゃいまして。最初はあまり慣れていないんですけども、そういう方たちと接するのが。でも自分が、心を開いて、私も同じムスリムだということをアピールして、お互い思いやりの心を持って接すると、何か、さらにいいことがあるのかなというふうに思っております。ちょっときょうは遅れてきてしまったんですけども、最後まで参加させていただきたいと思っています。では、皆さんよろしく願います。

アミン ありがとうございます。拍手してくれた。はい、じゃあ、今までオブザーバーのかたがたを含めモスクの現状だったり、課題だったりとかを次世代の視点から語りました。第1世代がモスクに求めているものと第2世代、あるいは次世代がモスクに求めているものが違うのではないかというようなことも話に上がっていましたし、これからモスクに限らずですね、モスク以外の居場所っていうのが、モスク以外の居場所っていうのが必要なのかっていうような話に徐々に移っていききたいなというふうに考えています。

先ほどの話に何度も上がっていましたように、モスクごとによって違いはかなりあり、例えば、一つくだらない話なんですけど、最近ある調査の関係で行ったモスクで、全然関東圏ではないんですけど、モスクを建てるときに、パキスタン人が建てるとなったときに、女性の礼拝室は要らないだろうっていうような考えのもと建てると。ただ、そこは6割ぐらいがインドネシア、マレー系の人たちなので、インドネシア系の人たちがいやいやそれはおかしいだろう、女性の礼拝室もつくろうっていうような話になりまして。最近そこにずっと通っているムスリムの方にいろいろ聞かせていただいたんですけど、インドネシア人の男性が、泣きながら訴えかけるような、それはおかしいだろうっていうようなシーンもあったり。結果としてそのモスクには女性の礼拝室が、一応、できたには、できたんですけど、先ほどの中村さんのお話にもあったように、それぞれの方がそれぞれのやり方を正しいと思っていたり、それぞれのやり方が良いやり方、一番最適なやり方、一番最も理想的なやり方なんだっていうようなことを思っていたりとか。

それに影響されて、モスクごとの特徴とかもいろいろ出てきたりとか。ただ、やっぱり現状として、モスクの数はかなり多いとは決して言えない状態で、絶対量として少ないので、じゃあ、私はあのモスクに行こう、僕はあのモスクに行こうっていうようなチョイスがそもそもそこまでないのではないかなと。たまたま自分が生まれた所の近くにあるモスクがどういうモスクだったかによって、かなり影響されるっていうようなことですね。

それを受けてモスクをじゃあ変えていこうっていうような動き、きょうもかなり楽しみ

なご意見がいろいろと伺えましたが、モスクを変えていこうっていうような動きもあれば、モスクにはもう求めない、もしくはモスク以外の場所も必要なんだ。モスクも必要だけど、モスク以外の場所も必要なんだっていうような動きで、モスク以外の所で、例えば次世代が集える場所だったり、例えば、改宗者の方が集える場所、例えば女性の方、何でもいいんですけど、集える場所みたいな形でモスクを変えていくパターン、そしてモスク以外の所で新たな場所をつくっていくパターンですね。

サードスペースっていう言葉が今、後ろにあるんですが、そういった場所のことをサードスペースっていうふうに呼んでおります。モスクでは決してないんですね。モスクに、たまに親世代の話している中で聞くのが、モスクに来ない人たちもうイスラムから離れているよねとかっていうような言い方をたまに耳にすることがあるのですが、必ずしもそうではなくて、きょうもお話にありましたように、モスクには行かないけれども、立派なムスリムで、ムスリムとしての確固たるアイデンティティを持っていてというような方もいらっしゃると思います。そういったかたがたは、モスク以外の所で例えば、ムスリムとつながっていたり、宗教実践をしていたり、違う所で礼拝をしていたりっていうようなことが行われているというふうに思うんですが、そういったことを含めて、皆さんにご意見、もしくは皆さんが居場所をどこと感じているのかというようなのをいろいろとお伺いしたいなというふうに思います。

いろいろと今アンケートのほうをお答えいただきまして、ありがとうございます。居場所と感じている場所と、ムスリムと日常生活の中で出会う場所っていうのが、全く一緒なのかそうでないのかっていうのを少しきょうはお話できればなどこれから思うのですが、人によっては本当に全く一緒に、ムスリムと日常的に出会う場っていうのと居場所と感ずる場っていうのが全く一緒だと。ただ人によっては、全く違って、例えば、居場所と感ずる場所にモスクは入っていないけれども、日常的にムスリムと出会う場はモスクであるとかっていう方も今、何名かいらっしゃったので、ちょっと当てちゃって申し訳ないのですが、何人かこちらでちょっとぜひご意見を伺いたいなっていうような方をピックアップしますので、まず、先ほども中村さんに話していただいたので、またちょっとご意見を伺えればと思うのですが。モスクを必ずしも居場所とは感じてはいないけれども、日常生活の中で、ムスリムと接することのある場所の中にモスクっていうのがあるんですけども、モスクを必ずしも居場所と感ずないっていうのには、何か理由だったりとか、ちょっとその辺をお聞かせ願えますか。

中村 私は、モスクから2時間ぐらい離れている家に住んでいまして、もともとあまりそのモスクの地域の2世たちとも、最近仲良くなつたんですけども、もともとはあまり仲良くなつたんですね。

そして、私の世代の人たちがあまり多くなくて、みんな中高生で、やっぱりガキンちよって感じなんです。で、大学生は、もう4人かな。モスクに来る人たちがいなくて、そ

れも今年初めて仲良くなったんですよね。それまでは、何ていうんだらう、友達がいなかったの、モスクに行って、礼拝をする。で、大人たちは、何ていうんですかね。大人たちの話にも入っていけないし、ガキンちょたちと話しても、俺はもうその時代を通り抜けたぜみたいな感じなんですよ。

だから、何だらう、孤独ではない、孤独だったのかな。孤独だったので、あまりモスクに居場所は感じなかったです。あと、えっちょっとしゃべり過ぎですかね。

アミン いや、どうぞ。

中村 何か、マスジド学校に6年間通っていたんです、中高生の時代のときに。そのときに、今は、もう改善されつつあるんですけど、そのときにアラビア語とクルアーンの先生が、アラブ人だったんですね。しかも、そうやってモスクで無償で、無償っていうかちょっとお金が出るらしいんですけど、それを教える人たちって、イスラム！みたいな、みんなに、ダーワするぞ！みたいな人たちが当時は多くて、日本語ができないんですね、まだ、日本のことはよく分かっていないから。だから、どぎついアラブなまりで、it is very important みたいな感じで、ずっとマスジド学校で、何ていうんですかね、アラビア語とかクルアーンとか教えられて、日本の英語教育だったら、私、公立学校に行っていたんで、日本の英語教育ってそこまでないじゃないですか。分からないんですよ、宿題も分からないし、何を言っているかも分からないのに、永遠に怒鳴られて怒られて、それでちょっと私、本当にPTSD的なものが発生してしまって、モスクの教えてくるおじさんたちを見ると体が震えてしまっていたんです、その、冷や汗が出て。

アッサラーム・アライクムって話し掛けられるのも怖いから、モスクで取りあえず、永遠にお祈りをしているふりか、それかもし入り損ねたら、入り口の所で先生たちがお話をしていたら、そのモスクの入り口でちょっと歩いている歩行者のふりをして、いなくなるまで待つて、いなくなったら、ダッシュで礼拝室に入りたいな感じで、モスクが怖かったんです。で、友達もいなかったんです。

だから、居場所ではなかった。今、少しずつ変わりつつあるんですけど、という意味で、モスクのやつを書いてなかったです。すいません、しゃべり過ぎました。

アミン いえいえ、貴重なご意見ありがとうございます。モスクは怖かったしモスクにいる人たちも怖かったけれども、イスラムから必ずしも離れていた生活だったというわけではないんですよ。

中村 お祈りは、はい。逆に、誰もいないから、しかも日本人の友達に話しても分かってくれないから、そこでアッラー！みたいな感じで、逃げていました、私はその逆に。お願いします！みたいな感じで、です、はい。でもあの本当に、何ていうんですかね。態度は

悪くて、例えば、親が2時間モスクに運転してくれるんですけど、その間にずっと、お母さんの運転する座席の後ろを蹴りながら、なんでモスクに連れていくんだよ！みたいな、で、モスクに着いたら、アッラー私を許して！とか、何かもう矛盾した生活をして、そのときは。はい、そういう経験があります。

アミン ありがとうございます。そうですね、なので、いろいろな貴重なご意見をありがとうございます。モスクが嫌でも、イスラームは嫌じゃないっていうようなことも非常に興味深いなっていうふうに思いました。

それ以外にも、今友達がいたかいないかっていうような話になりましたアリアン君が、友達がいて、そこが居心地の場で第2の家でっていうような理由の一つに友達がいることっていうのを挙げていました。すいません、■■■■さんに当ててしまうんですが、モスク以外でのムスリムの集まりとかっていうところで、そこでは例えばどういう方と出会うんですか。日常的にムスリムに接することのある場所として、モスク以外でのムスリムの集まりっていうようなところをご回答いただいたんですけども、そこは必ずしも居場所ではないっていうようなことだったのですか。

■■■■ まず居場所について言いますと、ただモスクとかにはチェックしてなくて、というのは、多分、先ほどの第1部でコメントしたように、近くにあるモスクが行きづらいモスクだったので、別に居場所じゃないなって思ったのと、そういうモスクがある中でも、東京ジャーミイは落ち着く場というふうには言ったんですけども、居場所っていう居場所じゃないなって、フラッと行って落ち着く場。たまに行きたいなって思うようなそういう場ではあるんですけども、居場所って呼べるような場では、近くにあるわけでもないんで、そういう理由でチェックしてなくて。ムスリムと接することのある場所って、多分、学校とモスク以外のムスリムの集まりにチェックしたと思うんですけども、今の大学がかなりムスリムの方が多くて、割と小さいキャンパスで二つの学部しかない所なので、そのキャンパス内でムスリムコミュニティみたいなのができていて、その中には、留学生がほとんどなんですけれども、私がよくしてもらっているのが、日本人の改宗したムスリムの方だったり、私と同じように、ムスリム2世で、ハーフの方とかが、結構いるので、学校のそういうコミュニティが今、一番私にとって、落ち着いて居場所があるなと思う場所になっています。

で、モスク以外でのムスリムの集まりでムスリムと接することがあるのは、多分、アミンさんが立ち上げたSYMはこれに当たるのかなって思って、それにチェックしました。第2世代が集まるようなスペースだったり、友達を通して紹介して会うことが多いので、そういう意味で、モスク以外でよく会ったよなって思いました。もちろんモスクでも会って友達になるっていう人もいますんですけども、そういう例です。

アミン 分かりました。ありがとうございます。モスク以外でのムスリムの集まりっていうところなんですけど、亀山カリールさんは、日常生活において居場所と思う場所で、モスク以外でのムスリムの集まり、を居場所と感じていると。そこがかつムスリムと日常的に接する場所でもあるっていうことなんで、それについて少しお願いします。

亀山 多分、私モスクと、両方。

アミン 日常的に接することのある場所はモスクとモスク以外でのムスリムの集まりの両方で、居場所と感じているのはモスク以外のムスリムの集まりのみってなっています。

亀山 そうですね。モスク以外での集まり、もちろんモスクでも、そういう集まりっていうのがあると思うので。もともと私、ここ生まれて5歳ぐらいまでいて、その後、大学まではずっとパキスタンで育てられたので、戻ってきたときに私がいつも通っている、浅草のほうのモスクなんですけれども、そこは割とパキスタン人だけの集まりで、しかも50代ぐらいとかの集まりで、なかなかそこで最初はその第2世代とか、日本に住んでいるハーフの人たちとか、ムスリムのかたがたとか、会う機会が全くなかったんですね。

それで、だから私は、何か、本当に第2世代っているの、いないのっていう感じだったんです、ずっと。ここ最近、やはり仕事の関係で、もうモスクとか行くのが週1回とかしかなく、ちょっとそれで東京ジャーミイとかも、ちょっとときどき行ったことあるんですけども。そこで例えば、アミンさんとかと会ったりも、そのジャーミイのモスクで声掛けて初めて会ったというのもあって、そこからだんだんこういう何か、そういう第2世代のために、何かその先ほどお話が出てSYMとかやってて、こういう集まりとか、この機会とかそういう場があって、そこで何回か通った、参加させていただいたときにも、ああ、こんなに第2世代がいるのとか、こういう問題とか今あるのとか。で、こういうちょっと集まりとかもあるのかっていうのを感じたので、こういう回答をさせていただいたということになります。

アミン モスク以外での集まり。例えば、今、同じ共通の例で上がっていたのが、SYMという2年ほど前から若者たちで何かやろうっていうような団体がありますけれども、そこを居場所と必ずしも感じない方もいれば、居場所と感じている方もいて、そこでもやっぱり違いが、個人差が出てくるっていうようなことですね。

登壇者の4名のかたがたにもモスク以外での集まりについてお伺いしたいんですが、例えば、アリアンさんは、モスクにかなりの居場所を感じているわけですよね。モスク以外でのサードスペース、モスク以外での居場所だったりとかの重要性ってあると思いますか、それとも、もうモスクで大丈夫だっていう感じですかね。

アリアン そのモスクの、先ほどもありましたけど、法学的なことであって、これは結論からいうと、結構、モスク以外での居場所っていうのを、自分大事にして、それはもちろん二つほどあるんですけど。その一つ目が居場所、そうですね。居場所っていうよりかは、先ほどからSYMってあるんですけども、これをちょっと言うと、交流できる場所みたいなことで、その自分の中でイメージしている一つの例っていうのは、東京ジャーミイの1階にある本とかが置いてあるような場所、そういうのがモスクではないんですけど、ムスリムが来て、何かいろいろな本とかあったり、あとは何かそこに若者のセンターみたいなそういった場所が必要だなと思って、それも幾つかの理由があって、例えば自分が何か抱えている問題とかがあったら、それをシェアとかできたりとか、あとは、同じような仲間がいて、そこで自分たちの悩みを共有し合う。

それ以外に、なぜこういうのが必要なのかなっていう、それは、法学的なこと、ちょっといろいろ議論もあると思うんですけど、一つ大事だと思うのは、これ自分の意見なんですけど、これから先、社会的な活動として、結婚とか、第2世代とか、第3世代これから増えてきて、結婚相手を探すっていうことになったときに、一番多分、親世代も、そういう意識を持っている第2世代もそうだと思うんですけど、一番安心できるのは、やはり同じムスリム同士での結婚だと思うんですね。そういったところでも、日本の中で、これから日本の中で生きていく人として、出会いの場所っていうわけではないんですけど、そういったところを仲介できるようなそういう存在、モスクではない他のところの存在っていうのは、大事なのかなというふうに思います。そういうところがだんだんと心の距離とかも近づいて居場所になっていくのではないかなと思います。

アミン いろんな理由がありますけれども、例えば、男女の出会いの場所にこういった場所、そういう機能になっていくのではないかっていう。

アリアン 出会って言っちゃうと、なんか言葉的にあれですけど、基本的には、そういった相談とか、そういう仲介役になってくれるようなそういう場所が必要だと思います。それはモスクじゃなくて、もうちょっと気軽に行ける、モスクだとやっぱり神聖な場所っていうことで、あまり大声でしゃべっちゃ駄目みたいなそういったいろいろな方がいますけど、そこだと普通にいろんな本とかが置いてあったりして、適当にだべりながら、おしゃべりしながら、そういった悩みとか共感できて、それと仲介できるような場所が必要だなというふうに思います。

アミン はい、分かりました。ありがとうございます。少し関連するのか、関連しないのか、事前に登壇者のかたがたにお答えいただいたアンケートに100年後までも持続する自らの活動でしたっけ、はい、自らの活動の影響を持続させるために、100年後までも持続させるためにというようなことを書いていただいたんですが、それについて少しお願

ます。

アリアン それについても書いていて、今、ちょっと交流できるようなそういったちょっと気軽な場所というふうにも言ったんですけど、それ以外に必要なと思うのは、これは歴史的に見てっていう、今、もうちょっと複雑になっていると思うので、このルールが今の日本でも適用されるかどうか、そんな簡単に適用されるかどうか分からないんですけど。ズバリ言うと、その知識的機関っていうのは、ズバリ言うと学校なんですけど、そういう学校が必要だなと思って。それはなぜかというと、例えば、例を挙げますと、イスラムが入ってきたパキスタンとかイラクとか、スペインとかもそうですけど、コルトバっていうすごいスペインの町なんですけど、イスラムの中心となった場所なんですけど、そこでなんでじゃあ1000年弱、イスラムがその根付いていたかということ、やっぱりイラクとかパキスタンとか、マレーシアとかもそうなんですけど、多分、あっち行ってから、イスラムが届いてから、そこをイスラムっていうその文化っていうか、守るための、何かどっか間違えちゃったら、そのまた中心に戻って、そこからまた広がっていくような、中心的な存在としてモスクじゃなくて、その知識を補完できるような、そういう場所が必要だなと思って。それが、もうそれ学校っていうと、もう何十年も何百年も続くものなので、そういった意味で、100年後っていう意味をそういった言葉を使ったんですけど。今それを、早稲田とかすごいイスラムとかの研究はしているんですけど、ムスリムによるムスリムのための、学校が必要で、そこで、ムスリムの立場からっていうのかな。日本の中で一つだけっていうか、中心となるような、そういう機関があって、そこで常に、新しいそのときの日本に合った指導者っていうのかな。みんなの先頭に立てて、みんなを引っ張っていけるような存在を常につくっていくっていう、そういう機関が大事なのかなっていうふうに思います。

アミン ありがとうございます。ザイラさんが最初の自己紹介のところで、ムスリム以外の集まりのところ、ムスリム以外の集まりで、ムスリムの友達と出会っていたり、遊んでいたっていうようなことをおっしゃっていたと思うんですけど、それについて少しだけご説明いただけますか。どういった集まりなのかとかっていう感じですかね。

マリク ムスリム以外の。

アミン ムスリム以外での、モスク以外で、あつすいません、間違えました。ムスリム以外じゃない、モスク以外でムスリムと会っているっていうようなことを自己紹介のときにおっしゃっていたので、それが何か具体的な集まりがあるのか、どういったものなのかっていうのを。

マリク そうですね。モスク以外で、自分がムスリムの人とよく会うときは、二つあるんですけども、一つ目は大学院とか大学で、留学生が来ていて彼らと一緒に授業を受けたりとかした後に、日本にいるムスリムで集まろうっていうことを計画して、みんなでどっかご飯を食べにいったりだとか、大学の中で、週1でどっかで会おうとか、そういう感じで会うことはよくあって、そういったときには、エジプトとかトルコであったりとか、いろんな国の留学生が来ているので、その人たちと会話していろいろ何かお互いの意見を交換したりとかしているっていうことが一つと、あともう一つとしては、自分が両親がパキスタン人なので、何か両親同士の友達同士の集まりであったり、イードであったり、そういったことがあると、どっかのレストランを貸し切りにしてパキスタン人だけで集まろうということが結構あったりするので、そういったときには、同じムスリムの人たちと集まることがあります。

アミン なるほど、ムスリム以外の友達の集まりとかもあるんですか。今、パキスタン人たちの集まりだったりとか、ムスリムっていう一つの共通点を下に集まっている留学生のかたがただったりという話でしたけれども、ムスリムではないお友達も、何人かいらっしゃるのでしょうか。また、その違いとかあってあったりしますか。居心地の良さだったりとかってというような面で。

マリク そうですね。自分は大学院で、パキスタンの民主化だったり、その中でイスラムっていうものが、どういうふうに取り入れられたのかっていう研究をしているので、もちろんそこで日本人の方とかも結構イスラムに興味があって、同じ内容のことを違う国でどういう取り組みがあるのかとか、そういうことを研究している友達も結構いるので、そういう人たちと会ったりとかするときには、日本人の人とか、そういう人が多くて、自分たちはムスリムではないっていう人も結構多いので、そういった人たちと話をして、彼らもすごいイスラムっていうものに関心を持っているので、一緒に話し合いをしたり、もうちょっと、イスラムではないんですけど、パキスタンっていう国の文化について知ってもらおうというイベントを企画したりだとか、そういう集まりを定期的に行ってます。

アミン ムスリムでない方とでも、もちろん、その居心地の良さだったりとかは普通に感じるっていうことですかね。ムスリムでないお友達と一緒にいらしゃる時でも、居心地の良さは感じる。

マリク そうですね。やっぱりムスリムではない友達のほうが、イスラムについて知りたいっていう気持ちが多くて、何か、誰かを批判するとかではなくて、何かいろんな人の考え方を尊重したりだとか、そういうスタンスで会っている気がするので、逆にムスリムではない人たちとイスラムについて話をするときのほうが、何かちょっと落ち着いてしゃべ

れるかなという気はします。

アミン ムスリムたちとイスラムの話をするときは、あまり、ちょっと思うところがある  
というようなことですかね？分かりました。ありがとうございます。

マリク 第2世代の人たちとしゃべるときはそうでもないんですけど、やっぱり、第1世  
代の人たちとイスラムについてしゃべるときには、やっぱりちょっと緊張しちゃうって  
いうところがありますね。

アミン それは、何度もすいません。例えば、さっき言っていたような、サーベイランス  
というか、あなたは十分に良いムスリムではないんだとか、そういった判断をされてい  
るなというふうに考えるのか、それとも別のところに理由があるんですかね。その緊張とか  
っていうのを感じてしまうのは。

マリク やっぱりそうですね。やはり、両親がパキスタン人なので、自分が話をしてい  
る時に、やっぱり日本で育ったので、こういうことは知らないんじゃないかとか、全然分  
かってないねっていうことを言われることが結構多かったんで、何か、そういう人たちと  
話をするときには、やっぱりちょっと緊張しちゃうっていうのがありますね。

アミン 何かしらのプレッシャーはどうしても感じてしまうっていうことですね。分かり  
ました。シャヘレヤールさんにもお伺いしたいんですが、居場所となる場所っていうのは、  
なぜそこが居場所なのか、なぜ居心地がいいのかっていうようなところで、ムスリムの友  
達、ムスリムでない友達もいらっしゃるのかどうか。そして、いらっしゃるのであれば、  
その何か違いだったりとか、居心地の良さだったりとかっていうのに違いはあるのでし  
ょうか。

シャヘレヤール 今は、積極的に今、第2世代のムスリムたちとつながりをつくっていて、  
やっぱ、一番の居心地の良さっていうのが価値観かなって、お互いの。お互い同じ、過去  
にそういう経験とかイスラムに対しての理解とか、あとそういう関係、いろいろ問題あっ  
て、そういう価値観が同じだからこそ、居心地がいい話をしていて、というのがあるのか  
なってここ最近。

また、ちょっとラッバイクっていう名前で行っているんですけど、今、それはもうモス  
ク以外の所で今、やっていて、それが本当にいきなりモスクとかやっぱり来ると、中には  
友達とかでもやっぱり言われちゃう人いるんですね。ピアスとか開けたりしていたりす  
ると、あと、髪の毛の色が違っていると、絶対モスクに来ると絶対言われちゃう。そういう言われ  
るとやっぱり傷ついちゃう。

だから、あんまり逆に僕はそういういきなり、モスク行くときは、一緒に行くようにとか、そういうことがあっても気にしないとか、声は掛けたりするんですよ。そういうのは、やっぱり見ていて、一緒にあっちも何か、俺は、言わないといけない責任があるんだ、みたいな、まず日本語勉強しろよと思って。俺に直接いわないで、何か、俺に直接も何か言う人もいるけど、日本語分からないからあなたが言ってみたいなことを言われて、あなたは日本住んでたんなら、日本語まず勉強して、あなたがまず、それはあなたの責任でしょという話を、その人にも話をして。それがそうですね。だから、ムスリム以外の友達とも、中学校の同級生とも会ったりして、向こうだと結構、変わったという印象があるんですよ。そういうときも、やっぱり話をすると、向こうは、あっ、すごい、何だろう、思っていたのと違う。実際にそういうメディアで取り上げられているのと、あと、実際、その本質的なこと、やっぱりムスリムと接することで知ることがあるんですよ、イスラムというのは。いくらメディアとか、インターネットで調べても分からない部分っていうのは、そこはやっぱり接することで分かるころがあって。そういう意味で、最近一ノ割モスクにも何人か日本人の方も来て、話をして、やっぱり 23 歳、若い人たちだったんですけど、それでやっぱりすごい宗教だなんていうのを言っていて。だから、どっちも大事っていうか。僕たちそのラッバイクの活動っていう意味では、何かやっぱり日本人の人たちにも、メディアだけでなく、直接伝えることも必要っていうことで、ストリートダワって言って、この前も長野行ったりとか、九州のちょっとキャンプも、福岡からマシドのキャンプも参加したりとか、いろんな近くも遠くもそういうふうに活動していて、そういうときに話す日本人の方とお話しすると、やっぱり理解してくれる部分がある、そういう言葉の面で、やっぱり。今までなかった部分だと思うんですよ、それが。どうしても親世代の人たちとの言葉のあれ、どうしても弱いから、今、自分たちがイスラム学んで、それを教えることで、向こうもすごい理解してくれるというのがあって。すごい、ここ最近長野行ったりとか、上野公園とかでもそういうの、ちょっとホームレスの人たちにそういう話とかしたりとか、そういうのもやっていて。だから、価値観が一番の原因かなって、親世代と子ども世代の、言葉の問題もあるんですけど、どうしても環境が親世代の人たちは、やっぱり生まれて育った環境がムスリムの環境だったから、今、日本にいる若いムスリムの人たちって、そういうムスリムの環境じゃない所で育っているわけだから、どうしてもそういう違いっていうのが出てくる。

そこでやっぱりお互いが共鳴っていうか、そういうところがあると思うんです、2 世の人たちで。だから国とかも、特に僕が見た印象では、そういうハーフの人で、あんまり国を気にしない。ハーフじゃなくても、本当に日本ずっと住んでいる人とかも、国はあまり関係ないみたいな。取りあえず俺なんだみたいな、国はあと。僕も別にパキスタンでも日本でもどっちでもいいみたいな感じ、そういうスタンス。そういうのが、みんなもハーフの人たちと会うと、やっぱりそういうところがあって、過去に外国人とか色々、そういう意味で、心のケアじゃないけど、いろんな面で、楽しみながら学んでいく感じですね。

だから、そういうどうしてもイスラムの疑問とかも、分からないこととかやっぱりあるじゃないですか、まだ、クルアーンのことだったり、シャリーアのことだったり、そういうのも、学者に直接つながっていないから、学者に聞きたくても言葉の問題もあるし、聞けないし。そういうときに僕が間に入って、イスラムでどういうことが言われているのか聞いて、教えてあげたりとかそういうのもやったりしています。

アミン じゃあ、第2世代と、親世代との緩和剤だったりとか、橋になって、例えば、緩和剤で言うと、さっきの怒られたりとか、ピアスだったりとか、髪の色とかを注意されてしまうのを、後からフォローしたりと。

シャヘレヤール そう、そう。

アミン というので、緩和剤になっていたり、あるいはイスラム的な知識が欲しいとか聞きたいとかっていう人たちと学者をつなげるブリッジになっているという面で、ご活躍されているということですね。日本のそのムスリムでないかたがたとの関わりの中で、イスラムを伝えるだったりとか、メディアでの偏見を解くためにというのがあったんですけども、友人としてムスリムの友人、ムスリムでないかたがたの友人ってというのは、両立しているのでしょうか。それともやっぱり、さっき価値観という言葉が何度か出ましたけれども、やっぱりムスリムの友人たちと一緒にいたいという思いからラッバイク、あっちなみに、ラッバイクの意味もできれば、皆さんに共有させていただければ。

シャヘレヤール ラッバイクは、ここにいます。アッラーに対して、私たちはここにいますよっていう感じで。

アミン 分かりました。

シャヘレヤール ハッジのときによく使う言葉なんです。

アミン では、そのムスリムたちの集まりっていうのも、なぜそういうのをやろうと思ったのかっていうのに、そこの先ほどの友人、やっぱりムスリムたちとつながっていたほうがいいのかっていうのが、裏にあったりするのでしょうか。

シャヘレヤール どうしても、イスラムの偏見がすごいので、1人でも足りない部分がある、伝え切れないとか。力も例えば、その努力のやり方も限られている。自分にできないことを他の人もできる。そういう意味で、人が増えることで、もっとイスラムの偏見がなくなる、伝える人が増えることによって。そういう意味で、周りにキリスト教会行ってち

よっと話をする人とかもいるし、もともとその人はキリスト教の人だったんですけど、それで改宗してイスラムに入って、キリスト教だったからこそ、今度キリスト教会とかに行き、いろいろ話をしたりだとか、そういう意味で、人が増えていくことで、そういう偏見とか、あと、実際に周りにそういう人たちがいることで、そういう恐れ、ムスリムに対して、偏見だとか恐れだとか、地域との関係とかも良くなっていくんじゃないかなって、そういう常識とかもみんな分かっているから、親の世代だったら、そういうのもあまり分からない、気にしない、そういう周りのルールとか基本的な。でも子世代は、それは当たり前だと思っているから、そういうのが出てくる。そういう意味でも、両立しているか、日本人の友達より、日本人の友達、やっぱりみんな忙しいっていうのもあるし、みんなバラバラになっちゃったというのもあって、あんまりあれなんですけど。そうですね、どちらかという、今、2世のムスリムというのが価値観的に早く解けるって感じですね。

アミン ありがとうございます。後ろに鈴木さんにちょっとお声掛けできればと思うんですけども、自己紹介の際に、日本人ムスリムですというようなことをおっしゃっていました、と思うんですが、改宗、入信されたムスリムであるってということですかね。

鈴木 あっそうです。はい。

アミン 分かりました。ご友人の関係とか、お伺いしてよければ。ムスリムでないかたがたのご友人もいたり、ムスリムのご友人もいたりというような感じ。それともやっぱり今、シャヘレヤールさんのお話にもあったように、ムスリムとやっぱり価値観が合うからそちらに自然に寄っていくというような形なんですかね。

鈴木 単純に数だけで言えば、ムスリムじゃない友達のほうが多いと思います。ムスリムの友人は、数としては一握りですね。別に仲はいいですけど。

アミン 居心地の良さだったりとかってというのは、特に変わらないということですかね。

鈴木 そうですね。特に変わらないかと思います。はい。

アミン 特にじゃあムスリムだけで集まろうとかってというのは、積極的にする必要性に刈られているわけではないと言いますか。そういう。

鈴木 私個人は、特にそういう必要性は強く感じているわけではないんですが、ただ、京都市の全体としては、多分、もうちょっとそういう機会をつくったほうがいいんじゃないかなという話は、今、しています。

もちろん市内にも恐らく2世の人がいるはずなんですけど、ただあまり接点自体がないです。実際、京都ムスリム協会のほうにも来られる人が少ないです。それから、どちらかという、多分、必要なのは、何ていうんですかね。京都ムスリム協会とやらなければいけないのは、日本人新規改宗者のケアとかフォローは、ちょっとやったほうがいいんじゃないかというのが課題として出ていて、何でかっていうと、ちょっとこれはもう、ぶっちゃけ居場所がない人が来ることが多いわけです。

こういうある意味公的な所で会わなければ、ちょっと避けたいなという人もやっぱりいるわけです。そういうときに、何ていうんでしょうね。やっぱりちょっと極端に走りがちな人もいたりして、そうすると当然浮くわけなんですけど、その浮けば浮くほど、つまり自分が正しいことをしているから浮くんだというふうになってしまったりとか、あとは、もっとその何ていうんでしょうね。あまり、私の観点からすると、ちょっとたちの良くない所に出入りしちゃったりとか、いろいろありまして。その何ていうんでしょうね、実践を続ける、続けたいは各人次第ではあるとは思いますが、結果として、2、3年っていうか、2年ってことは、1年ぐらいか。1年ぐらいするとちょっと消えちゃったりとかそういうことがあります。ですので、信仰と社会生活との両立とか、中庸とかをモットーに、もうちょっとなんかできひんかなということは、しゃべっています。

ただちょっと人手が足りなくて、っていうのも京都って基本的に留学生しかいないんですね。95パーセントぐらいは留学生で、この間日本語でしゃべる会っていうのをやったんですけど、喜んでくれたのは、既に定住してるうちの事務員さんとか、あと、インド料理屋のラジャっていうのがあるんですけど、ラジャの大將とか、何かもうすごく限られていて、少なくともモスクに来ているマレー系の、マレーシア、インドネシア人は大抵学部から来ているので、日本語分かるはずなんですけど、最初に日本語でしゃべったら、みんなポカーンとして。そんなこともありまして。ただ、間違いなく将来的に2世も増えてくるので、それも見据えてやりたいけど人手がない。そんな感じです。

アミン ありがとうございます。いろいろとお伺いしたいことがあるんですけども、言語の面で少しお話がありましたので、言語の面で少しお伺いしたいんですが、例えば、シャヘレヤールさんも先ほどおっしゃっていました。モスクで言語が分からないっていうことでした。子どもがつまなくなっているというようなことがあったんですけども、それは言語が伝わっていないっていうことですかね。

シャヘレヤール そういうのもあって、宗教のことだったら、ちょっと言語、高いレベルになっちゃうんですね、ウルドゥーの中でも。そういうのも関係して、厳しいと思っちゃうんです、子どもたちは。

アミン 言語の面で、例えばウルドゥー語だとか日本語の中で難しいとかっていうのもあ

るんですが、これはちょっと完全に分からなくて女性陣のかたがたにちょっとお伺いしてみたいんですけど、よく、これもまた海外の事例にはなってしまうんですけど、例えば金曜礼拝にモスクに行く方の中で、金曜礼拝の中のスピーチですね。フトバが、私たちに向けられていないんじゃないかっていうようなことをよく感じるっていうようなことが、言われている国々が欧米でありまして。女性、金曜礼拝に行くけど、私たちに向かって話してるみたいな、男性にしか話していないんじゃないのというようなことを感じているっていうようなことが、欧米では少なくともあるみたいなんですけど、日本で、今、いらっしゃる方で、たまに金曜礼拝とか、金曜礼拝だけじゃなくても、何かスピーチだったりとか講演だったりとかに参加されたことのある方で、そういったところを特に気になったりはしないでしょうか。どなたかあれば、特にないですかね。はい、お願いします。

リーム 当てはまる意見かどうか分からないんですが、私、日本に来て、いろんな Masjid 点々としたんですよ。コミュニティの話に戻りますと、私としては、アラブイスラム学院が一番アラビア語、フトバー、金曜礼拝のスピーチが長いから、アラビア語を通じる者としてそれは一番落ち着くっていうか、アラブ人がたくさん集まる所のほうが話しやすい、言語の関係でも落ち着くっていうところがありますけれども、正直なところ、どこも感動したことがないんですよ。どこの演説聞いても、一度も感動したことがない。金曜礼拝であろうが、ラマダーンの、基本的に教科書的なことを読んでるだけ、読み上げているっていう気持ちしか伝わってなくて。もし提案というか、期待するところがあれば、もっと日本における現状を把握したシェイクとかスカラーが来て、言葉を分かって、伝えると、また全然未来が明るくなりますけれども、これまで聞いている限り、非常に教科書的な話ばかり。もちろん精神的には、精神力アップというか、自分で読んでない人にとっては、もしかして役に立つかもしれないけど、自分自身は、既にそういう知識は子どものときから知っている上で日本に来たわけですから、もうちょっとレベル高いシェイクの話を知りたいなと思って。例えば、あるとき、ラマダーンのシェイクって分かりますね、学者。私、一つ、何か女性のところからも質問聞いていいですよ。で、一つ質問投げたんですけど、ここではあえて、何の質問だったか言わないんですが、日本と関わりある質問だったんですね。でも、シェイクはすごい知識は豊富ではあったんですけど、やっぱり、状況を分かっていないっていうのは非常に伝わって。それは、また日本で期待します。今度なんか、日本の価値観、宗教観、あと言語分かっているような、スカラーがあるといいなと、期待的なところだけ伝えてみます。

アミン 分かりました。ありがとうございます。居場所と思えなくなる要因として、これらを挙げていただいたっていうところですかね。分かりました。ああ、なるほど、人材が足りていないと。



[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

アミン ありがとうございます。今、さまざまなご活動が、ラジオのご活動があったりとか、ラッバイクっていうご活動があったりとか、グフロンさんに、先ほど、東京ジャーミイでお花のワークショップですか、を始めたりとかっていうのもおっしゃっていましたが、東京ジャーミイとしては、若者とそして、新たなムスリムですか、ノンムスリムの日本人の方々ですね。の、方々にアピールしたいっていうのがある中で、具体的にどういったご活動を予定、もしくはこうしたいなっていうふうに思いますか。

グフロン 今でこそ、僕、モスクで働いていて、イスラム教徒に囲まれて、どっぷりイスラムの環境で生きているんですけど、つい最近まで、やっぱり、宗教に対して嫌悪感っていうのがあったんですね。中学生までは、全然、親の信じてるものっていうので、礼拝しなさいって言われて、礼拝、親の前ではするけれど、別に信じてないっていう感じだったんですけど、高校1年生ぐらいのときに、初めて神様の存在っていうのを実感して、それ

からは、礼拝は自分からするし、神様は信じているし、豚は食べないしってやっているんですけど、でもやっぱりその宗教に対する嫌悪感っていうのは、消えなくて。それってきっと日本人が持っている宗教観とすごく同じだと思っていて、どういうことかっていうと、例えば、アッサラーム・アライクムっていうあいさつを交わすことに対してちょっと気持ち悪いとか思ったり、あとはその、神がとか、私たちの人生は天国が、樂園がっていう言葉を普段聞かないので、日本人として。だからそういう言葉を聞いたり、そういう環境に身を閉じることにに対する嫌悪感っていうのは、大学生ぐらいまでは、ずっと消えなくて、なので居場所はどこだったかって言われると、やっぱり日本人同士が集まる所のほうが素の自分で笑えるし。

アミン 日本人同士っていうのは、ムスリムの・・・。

グフロン ノンムスリムの日本人の友達と一緒にいる方が素で笑えるし、楽しいし、ただやっぱり高校生ぐらいまでは、全然それが大丈夫だったんですけど、大学生になると、飲み会とか男女関係とか性的な話とかっていうのが、関わってくるので、だんだん居心地が悪くなってきてしまって、留学生の友達とか、ムスリムの友達に出会ったときに、同じ宗教同士のほうが居心地いいなっていうふうを感じ始めたりしたんですけど、でも、それでもやっぱり宗教的な集まりとかに対して嫌悪感があって、やっぱりそれってたぶん自分が日本生まれで、日本で育って、日本語で教育を受けてっていうのがすごく大きく関わっていると思っ

なので、今でこそ大丈夫なんですけど、最初そのイスラミックスクールに入ったときに、例えば、朝礼のときに、クルアーンの言葉で始めるとか、そういうのって最初ちょっと、えっと思ったりとか、あと、遠足に行くときとかに、代々木上原の駅の改札の前で、じゃあちょっとこの遠足がうまくいくように、ドゥアーしましょうとか言って、20人ぐらいがドゥアーをし始めたりしたのを見たりすると、えっここでやるのとか、そういう嫌悪感が全然消えなかったんですよ。人間慣れてくるので、やっぱりずっとその環境にどっぷり漬かっていると、だんだんその嫌悪感がなくなってきて、それが普通になってきて、遠足行くときにお祈りするとか、何か試験やるときに、じゃあその前にみんなでお祈りしようとかっていうのが、全然普通になってきたんですけど、でも、初心を忘れたくなくて、やっぱり日本人にとって、宗教ってすごくセンシティブなもので、神っていう言葉自体、もうすごく気持ち悪いって思う人もいるだろうし、自分でも例えば、フトバとか聞いたときに、私たちの真の人生のゴールは樂園にある、みたいなことを聞くと、ちょっとやっぱりまだちょっと、えっっていうことがあったりする

僕としては、モスクでやりたいことは、日本人が抱えている宗教観とか、日本生まれのムスリムが抱えている宗教に対する嫌悪感っていうのを理解した第2世代として、彼らにアプローチするっていうことができたらなって思っているんですけど、だから、モスクの

ツアーとかやるときも、日本人に対して、例えば、このモスクで礼拝することで、私たちは楽園に入ることができるんですよとか、そういうこととか絶対言わないし、何ていうんですか、悪魔がとか、呪いがとかそういうこととかは、絶対に口にしたら、もう日本人とか第2世代の穆斯林のあんまり宗教をまだ受け入れられていない子たちってというのは、絶対に気持ち悪いって思ってしまうだろうから、例えばこういう、穆斯林第2世代同士で仲良くなった者同士だと、アッサラームアライクムってLINEとかで言ったりできるけど、それを言ってしまうと、気持ち悪いと思ってしまう人もいたりするので、そういう日本人が持っている宗教観とか、宗教に関する嫌悪感っていうのを理解して、やっていきたいなと思うんですけど。

それで、モスクでお花のワークショップっていうのもきっかけになってもらえればなと思っていて、モスクとしても、やっぱり何も関係のないものをやるよりも、お花っていう神様がつくった創造物で、美しいモスクの中で、そのお花を触って、何かに気付いてもらう。ある種の、1ミリでもいいから、ある種の悟りがあればいいなっていうので、お花を触ってもらってというのもやりたいんですけど、お花のワークショップやるとか、陶芸のワークショップやるとか、カリグラフィーの教室があるっていうのが、直接的に宗教的に、宗教、宗教っていうアプローチではなくって、何ていうんだろう、間接的に日本人とか、第2世代の穆斯林の子たちも、影響を与えられたらなと思っているんですけど、モスク、質問なんでしたっけ、ごめんなさい。

アミン モスクに行ってもいいですし、モスクに限らずでも、モスク以外で、何か活動だったりとか。

グフロン そうか、そうか。モスク以外の活動、そうですね。居場所ってさっきこう皆さんおっしゃっていたんですけども、モスクが居場所って思ったことなくって、モスクはもうなんか礼拝をする場所とか、金曜礼拝に行く場所っていうイメージしかもうないですよ。モスクがやっぱり居場所っていう感覚はないんですけど、モスクを居場所っていうふうに感じる事ができれば、すごくそれは素晴らしいことだと思っていて、やっぱりいろんな場所で、いろんな仕事をして、いろんなことを学んで、いろんな所でもうバラバラにみんな活動しているんだけど、モスクに来て、そのモスクに行けば、何かつながりがあるとか、このモスクに行けば、何かがあるっていうふうに思える場所があるっていうのは、すごくいいなと思うので、居場所、居心地がいい場所にできればなって思いますね、モスクの中の人間としては。全然だから、何だろう。たまにモスクの中で、適当に時間を過ごしている人とか、いるんですけど、そういう人に対して別に何にも言わないですし、ただたまにモスクの職員が、寝っ転がっている人とかいると、注意してきてとか言われるんですけど、それ注意する必要あるのかなとか思ったりするので、もうちょっとこう居心地のいい場所にできればなと思います。

アミン それは、折り紙でも何でも注意しないということ。

グフロン 人に迷惑を掛けていなくて、教えに反していなければ、注意する必要ないかなって思います。

アミン ありがとうございます。ちょっとすごく大変興味深いなと思ったのが、お話されるときに、実は第1部のときもそうだったんですけど、日本人とか、日本人というのは、ムスリムではない日本人のことを指しているんだと思いますが、日本人とか第2世代とかっていうふうにはひとくくりされていることがあるなっていうふうに思って、第2世代ってというのは、その親世代よりもアプローチの仕方としては、親世代に対するアプローチよりは、ノンムスリムに対するアプローチと似たようなアプローチを第2世代にもするべきなんだっていうふうに考えているのかなって、ちょっと深読みし過ぎたのかもしれませんが。

グフロン もう本当に、そうですね。だから、イスラムの環境で、イスラミックスクールで働いている自分でも、神様すごい信じて、クルアーンも読むし、そういう自分でさえもまだやっぱり、集団で駅の所で遠足のドゥアーをしたりとかっていうのを見ると、嫌悪感を抱きますし、例えば、お花見とかで、集団で100人、200人もの人たちが、集団で礼拝しているとかっていうのを、これちょっとえっとか思ってしまうこととかもあったりするので、でも、今はそれってすごく素晴らしいことだし、イスラムとして誇りを持ってやっていいことなんだってというのは、今でこそありますけど、それが本当について最近の自分が思っていたってということは、日本人はもう絶対にすごく嫌悪感、気持ち悪いって思うだろうし、第2世代のあんまりイスラムイスラムしない人たちにとっては、やっぱり気持ち悪いものだろうなって思うだろうし、だから、例えば、SYMに関して、その第2世代のムスリムの友達欲しいって思ってるかもしれないけど、でもムスリムっていうイスラームっていう名前があることが壁になっている可能性もあるんだろうとか。イスラム、さっきは、のぞきたい欲っていうのが、すごいしくりきたんですけど、イスラムとしては、イスラムに対して嫌悪感はあるけれども、でもやっぱり自分のアイデンティティで、信じていたいものではあるけど、でも、ちょっとこう近寄りたいたいものっていう宗教観みたいな。日本人、日本生まれの人たちが持っている宗教観っていうのを理解する必要が多分、みんなあるんじゃないかなと思います。

だから、そのフトバのシェイク、現場を知らない人材っていうのも、彼らもやっぱり日本人が持っている宗教観とか、第2世代が持っている宗教に対する嫌悪感っていうのを、理解しない限り、彼らの心には届かないし、もう礼拝とかをきちんとしている若者とかは、自分でどんどんインプットできるんですよね。だからそうじゃない子たちが置いていか

れちゃう感じがするので、初心に戻って、自分たちがいかにこう神様を見ていたかとか、クルアーンの言葉にどう感じていたかとか、アッサラーム・アライクムっていうあいさつに対してどういう反応をしていたかっていうのを、ちゃんと忘れないようにするのがいいのかなと。

アミン ありがとうございます。ノンムスリムのかたがたが持っている宗教に対するイメージだったり、嫌悪感だったり、気持ち悪さだったり。

グフロン ノンムスリムと、あと第2世代。

アミン 第2世代も持っているっていうことですね。ちょっとインターネットの話にちょっと移りたいんですが、その前に、シャヘレヤールさんに、日本人のノンムスリムのかたがたが抱いているのかもしれないっていう、あと第2世代の方が抱いているのかもしれない、宗教に対する嫌悪感だったり、気持ち悪さだったりっていうのは、例えば、ストリートダアワっていうのをされているっていうふうに、おっしゃっていましたがけれども、ストリートダアワっていうのが、日本語でどういうものなのかっていうのがまず一つと、今、グフロンさんがおっしゃったような宗教に対する、ノンムスリムのいわゆる嫌悪感だったりとかっていうのを、やっぱり感じるものなのか、第2世代とそれは共通するものなのかっていうところで、ご意見いただけますか。

シャヘレヤール ストリートダアワは普通にというか、この格好で歩いている時点で、もうみんなからは気付かれるっていうか、何かいるなっていうような思うんですけど、それはもう意思としては、これはイスラムですよっていうのは、もうその時点から始まっているんですけど、話をして、普通に普段、さりげなくちょっと話し掛けて、それで、一般の人々と関わりない人たちに、ちょっとイスラムを説いていくっていう形で、それが、ストリートダアワ。イベントとかそういう所に行ったりして、自分ももし自分が逆の立場だったら、自分もそう思うっていうのは自覚しているんですよ、何かちょっと変、何この人っていうのは、それは間違いなくあるかもしれない、日本っていう社会で、そういう環境で、絶対思う。昔の自分だったら、自分でも思っている、この格好で、何か、ウワーみたいな感じで。でも今は、そういう感じじゃないんですよ。逆にこういう格好をしているからこそ、声掛けられたりとかして、話のきっかけになったりして、あと、普段、何だろう、そういう普段の格好をしていたら分からないんですよ、この人何の宗教なのかっていうの、基本的に、こういう格好をしていなかったら。女性だったら、ヒジャーブしていたら、イスラム教の人なんだな、男性だったら、全く分からないですよ。

そういうときに、例えば、何かそういういいアプローチしても、それが、イスラムとは受け取られない。ただ、この人いい人なんだな、みたいな。でも、こういう格好して、そうい

ういいアプローチとかすると、あっ、イスラム教の人は優しいねとか、全然会ってもない、見ただけで、そういうふうにつえられることも本当にあるので。最近だったらさりげなく、ちょっと若い人たちにビスケット、ちょっとこうやってあげたりしたら、それで、何か声掛けられて、この格好は何ですかみたいな。それで、そういうちょっとイスラム教なんですよみたいな感じで。それだけです。それから何も会話、何だろう、何かイスラム教はこうこうです、みたいな感じじゃなくて、ただ自分たちはイスラム教ですみたいな。行動で示すというやり方ですね。百聞は一見にしかずっていうように、いくら説明しても、やっぱりイメージっていうのは、残っているので、メディアの。それを取り払うためには、そういういいイメージを植え付けるしかない。

だから、僕はあえてこういう格好で、やっている。だから別にいろんなやり方があるので、もちろん変な人と思っている人も間違いなくいるし、こういう格好をしてたら、それも間違いなく。でも、その中でも頑張っていく必要があるっていうか、この前もイベントとか実際に行ったときに、長野のほうに行ったんですけど、そのイベントで出演者の人たちから声を掛けられたんですよ、逆に。それですごいもう2時間ぐらいそこで話したっていうのもあって、そういうきっかけにはなっている、間違いなく、いろんなところで。でも、それも分かっている、その、変な目で見られているのも分かっている。でも、周りの目を見るよりも、アッラーの目を見るっていう、僕の中でそれがあるんで、アッラーの目を見れば、周り、そうじゃないと、それは別にイスラムのあれだけじゃなくて、やっぱり今の社会問題の中でも、周りの目が気になって、自分を出せないでそのまま何か、すごいストレスたまったりとか、そういう起こっているんで、どんなことをやっても、やっぱり周りは言ってくるし、絶対、何だかんだ。100パーセント傾くことは絶対ないから、そういうのは、あんまり気にしていないっていうか、そういうスタンスで。

アミン ありがとうございます。日本で宗教のイメージとかの調査でも、例えば60パーセント以上が宗教危ないと思っているとかっていうような、統計結果もあって、そういったイメージを崩していくっていうようなご活動で、ここにいらっしゃる方って本当にいろんな多様な考え方で、多様な生き方で、多様な、さまざまな本当にご活動に頑張っていられっしゃるかたがただだと思います。

そういったイメージを崩すっていう中の一つのやり方として、今の、そういうストリートダアワだったりとかっていうのをやっているということですね。ありがとうございます。

最後に、時間も限られておりますので、ひとつ、これを話さないと終われないっていうのがありまして、皆さん、居場所というところもそうなんです、日常的にムスリムと接する場所っていうところにも、インターネット、特にSNSをチェックしている方が多いんですね。

私自身は、そんなに、そのTwitter上だったりとかで、あまりTwitterやっていないので、どういう状況なのかっていうのが本当に全く想像がつかないんですけど、たまに1回

チラッとひょんなことをきっかけに見てみたら、これはすごいことになっているぞと思って、そのときはもう寝る前だったんですけども、飛び上がって、これは何が起きているんだと、3時間ぐらいずっと Twitter を見たことが1回ありまして。具体的にはあれですけど、何かそのムスリムコミュニティもそもそもまず出来上がっているのかな。この中で Twitter をされている方、Twitter に限らずかもしれませんが、されている方どのくらいいらっしゃるかわかりませんが、居場所っていう面で、もしくは例えば、偏見を崩すっていう面で、あるいは第2世代に何か声を与えるとか、第2世代の悩みを聞いてあげるとか、それは肯定的に聞いてあげるとか、全てそういうのをひっくるめて、今、インターネットはどういう状態にあるのかなっていうのを、僕の勝手なあれですけど、アリアン君が、その第1回次世代会議のときにもインターネットについて、何回か触れていて、インターネットを使った活動だったりとか、のことも話されていたので、ちょっとそこをお願いします。

アリアン インターネットに関してなんですけど、自分も Twitter のほうをやっています、そこでちょくちょく日本人ってイスラム教に対しての、イスラム教っていうか、宗教に対して何か、親近感がないので、そういったところを、自分もあって、日本語で何か神とか、天国、先ほどから天国という言葉、すごく勇気を出して言ったんですけど、そういうところをちょっと考慮しながら言っていて、そういう情報発信したりするんですけど、結構周りもそれに対する、イスラム教に関してのことだったりとか、あと宗教に関してのこととかを発言する人は、結構多くなっている状態だと思います。インターネットを通しての活動なので、結構すぐ拡散力があるので、そこで結構慎重にやっている状態です。

アミン 分かりました。インターネットのご活動というと、例えば、さっきのラジオも YouTube を通してっていうのがありましたが、この中で何かインターネットを通して、例えば、グフロンさんのインスタグラムだったりとか、あるいは先ほど、アウファさんのお名前が挙がりましたが、妹さんのアウファさんがヒジャーブモデルっていいんですかね。としてご活躍されていたりとか、インターネットを通してのご活動をもしこの中で他にされている方がいれば、ぜひ聞いてみたいんですけど、特にはいらっしゃらないですかね。あっ、お願いします。

グフロン 僕と妹が、アウファっていうんですけど、アウファがヒジャーブのモデルとして、いろいろ活動していて、僕らは、アウファはファッション的な部分で、アーティスティックな写真を自分で撮って、自分でスタイリングして、それを写真に作品としてインスタグラムに上げていてっていうことをやっていて、僕はお花を主に、お花を通してインスタグラムに上げているんですけど、僕も目的はあって、直接的ではないけれども、自分たちがムスリムとしてこういうことをしていて、いつかどっかで誰かがかっこいいムスリム

がいるとか、すごくいいことしてる人がいるとかいうふうにつかかってくればな  
と思っいて。

やっぱり第1回の会議のときにインスピレーションがあったんですけど、必ずしもクル  
アーンの先生がイスラムの代表として光るとか、必ずしもモスクによく来る若者で、こ  
ういう活動に参加しているムスリムがイスラムの代表でっていう感じで光るのではなくて、  
自分たちも、例えば僕はお花をやっていて、アウファはファッションとかアートの写真  
ていうのをやっていて、それを見た人が、僕らがイスラムでムスリムということを知  
て、それをきっかけにイスラムを知ってもらったり、ムスリムに対して興味を持  
ってもらったりしてくれればいいなっていうので、ある種のダアワ活動みたいな感  
じだと思っいてるんですけど、そういうのだから SNS だとノンムスリムの人でも、  
ムスリムの人でもいろんな人がアクセスできるし、自分たちの表現っていうのが、  
簡単にある種のエキシビションっていうか、展示会っていうか、それがすぐに  
ネット上でできてしまう時代なので、そういうのを SNS でやっています。

アミン 分かりました。ありがとうございます。そういったインターネットのご活動  
だったりとか、あるいはラッバイクだったりとか、物理的な、例えば、僕たちの先  
ほど、SYM、エス・ワイ・エムとかって言っていましたが、Space for Young Muslims  
の略で、なので最後にムスリムが付いているっていう、先ほどのグフロンさん  
の話だと、はい。そういったいろんなご活動があり、モスクの中でもいろ  
んな問題があり、そしてその問題を認識できているかたがたが今ここに集  
まっいて、それを日本的に日本に適した形でこれからモスクを変えるなり、  
モスク以外のスペースを新たにっくっていきなりっいていう形で徐々に  
日本のムスリムコミュニティが、徐々にっいていうか、かなりの速度で変  
わっいていくのかなっいていうふうにお思っいています。

今、ファッションっいていうお話もありましたし、いろんなお話が、いろ  
んな視点から出ましたが、今、オブザーバーの方とかでまだご発言  
特にされてない方、これは言っいておきたいとか、ありま  
したらぜひお願っいたいなと思っいてるのですが、どう  
でしょう。あっありますか。

ファティナ ちょっとだけ何か、インターネットの活動から。全部がインターネットの活  
動っいていうわけではないんですけど、在日インドネシ  
アムスリム協会のほうで、日本人、または日本語をしゃべる方向けに、  
イスラムゼミっいていう勉強会を月イチでやっていて、それは、  
生配信でも配信されたり、YouTube にも動画をアップ  
ロードしているんで、例えば、行きたいけど、知  
りたいけど、やっぱり行くのは恥ずかしいとか、ち  
ょっと人に会うのが怖いとか、そういった方向けにま  
ずは動画を見てもらっいて、この勉強会がどうい  
う場なのか、どうい  
う人たちが集まっいて、どうい  
うことを学んでい  
るのかっいていうのをま  
ずは見てもらっいて、興味を持っいてくれたら、  
実際に来てもらっいていう場にはして  
います。な

ので、両方ありますね。ネットの世界と、実際の世界。で、イスラムゼミの中でも、先生はいるんですけども、その後にトークショーとかもやったりして、実際に一般人のムスリムの方と、お話をする機会っていう話を聞いて、この間、アミンさんにも来ていただいて、話をしてもらって、ディスカッションをしてもらってという機会も設けたりしていて、やっぱり何ていうんですかね、イスラムの知識がすごくある方と一般の方をつなげる、中間みたいな場になればいいなって思って、今、活動していますので、皆さん、興味ありましたらぜひ、来てください。それか、動画を見ていただいて、はい。ありがとうございました。

アミン ありがとうございます。他に何かいらっしゃいましたら、何かご活動されている方で、宣伝しておきたいとかでもいいですし。

一同 ハハハ。

ファティナ 宣伝の場になってしまって、すいません。

アミン いえいえ、もうぜひ。

グフロン 来てください。

アミン あっ東京ジャーミイでお花のワークショップがある。

グフロン 毎月第1土曜日にやる予定なので、ぜひ来てください。

アミン はい、行きます。他に何かもちろんご発言で、宣伝じゃなくても、何か言っておきたいとか、こういう活動をしていますとか、何かあれば、それ以外のことでももちろん大丈夫ですが。特に、大丈夫ですかね。いいですか、分かりました。そうですね。お時間にもなりましたので、この後、閉会のごあいさつをさせていただき、懇親会のご案内もさせていただきますんですが、最後にひと言だけ申し上げますと、本当にここ2、3年、いろいろなところで言っているんですけど、ここ2、3年で今、見ていても分かりましたように、現状を認識していて、そして変わろうとしている、変えようとしている人たち、その中でも本当に積極的にご活動されているかたがたが今、この部屋に何名も集っていただけたということですが、本当に日本がこれから変わっていくんだなっていうのを、まさに今、目の当たりにしているっていうふうに、本当に感じていて、特にこの2、3年ですね。さまざまな活動が本当に盛んになってきていて、第2世代がそれ相応の年齢になってきたというのももちろんそうなんですけど、やる気だったりとか、モチベーションだったりとか、それ

につながるこれまでの過去の経験だったりとか、悩みだったりとかっていうのが、それをファシリテートしているのかなっていうふうにも感じますし。イギリスでジェネレーションMなんて言葉がありますけど、ジェネレーションM、ムスリムチェンジングザワールド。世界を変えるムスリムたちっていうような、要するにイスラーム的であり、要するにイスラームに反したことはしていないけれども、モダンだったり、最近のやり方だったり、それこそインターネットを駆使していたり、洗練された見た目のものをやっていたりとかっていうので、モダンでありかつ、イスラーム的であるということを見事に融合させて、それらが共存するものとして、融合させて、さまざまな活動に励んでいる人たちのこと、ジェネレーションMなんていう言い方もありますが、まさに日本のジェネレーションMのかたがたがきょうここに来てくださったのかなというふうに感じております。本日は、お越しくくださり、ありがとうございます。閉会のごあいさつを、桜井先生に何かコメントをいただければなど。お願いします。

桜井 前回、第1回目も拝聴させていただきまして、きょうはさらに何か突っ込んだ、何でしょう。皆さんの体験に根ざした、一人一人がやっぱり違う状況の中で、アイデンティティと格闘されてきて、今、ここにいらっしゃるといふね。その一つ一つの物語が、いかにプレシャスかということをもう非常に感じました。

やっぱりみんなに共通していることもあるけれども、やっぱり、自分だけの体験も皆さんたくさんあって、でもそれを、やっぱりそしゃくして乗り越えて、そして新しい形で、繋ががってこうとしている、その努力っていうのは、皆さん一人一人の努力もすごくプレシャスだけど、その努力がこの日本の場で行われているっていうことは、日本にとってもすごいプレシャスなこと、っていうのはやはり日本は皆さんご存じのように、いいところもあるけれども、やっぱり非常に同質、同化圧力が強くて、この異質な者を、違うから楽しい、違うから豊かだとなかなか楽しめない、そういう民族性っていうのが残っていて、だけど明らかに私も長年教員をやっていて、若い世代は変わってきている。

だけど、まだまだ変わらなくちゃいけない。だから、皆さまがいることで、日本人も変わる。という意味では、日本社会にとって皆さまの存在がすごい希望だというふうに思いました。もちろん皆さんすごいいろいろなご苦労をされ、あるいは葛藤され、まだまだと思っていることがあるかもしれないけれども、非常に逆に言えばありがたいし、皆さんを見ていて、私は何だか希望を感じましたね。

やっぱり、フランスだとかね、ヨーロッパ、今、すごくいろいろな問題がありますよね。やっぱりもちろんいろんな、似ている部分もあるし、いろいろ条件が違うところもある、だけど、その失敗例からもやっぱり学ぶことが必要かなというふうに感じます。

だから、なんででしょうね、よく思うんだけど、違う、違いますがね。違うものを、例えばムスリム同士もそうだと思うんです。私は、イラン研究をしているので、イラン人ムスリムの人たちは、こういう場には絶対出てこないです。出てこれないと思うんですね。

やっぱりシーア派であり、全然違う環境の中で、ムスリムのアイデンティティを築いている。だから、違うものを認め合うのに、もちろんテクニックがあるんだなと最近思うんですね。そのテクニックは何かっていうと、違いを認めつつ違いを突き詰めないこと。あいまいにすること。何か、あいまいにすることって、すごく逆に言えば気持ち悪いんだけど、やっぱり何かクッションをつくる、あいまい。だから違うものは永遠に違うんですね。

例えば、一つの神を信じるという文化で育っていない人が、頭で分かっても、やっぱり最後は体がついて行かない。やっぱり1人かなって思っちゃう日本人が多分大勢いるんだと思うんですね。

でもそれと、やっぱり神は1人だって思っている人と、あつても1人だと思えると、彼はラッキーだなと、すごくシンプルで、世界観がシンプルでいいなと。けどどじゃあ、どっちがいいかとか、どっちが正しいかとかっていうことを突き詰めたら、絶対に回答がないんですよ。だからそのところは、若干、あいまいにする。何か友達でもそうですよね。夫婦でもそうですよね。若干、あいまいにすることで、まあ、いいかっていう。何かその知恵、その知恵がうまく日本で生きれば、何かいい例としてね、失敗例じゃなくて、いい例として、さまざまな問題があるけれども、まあまあ他よりはいいんじゃないかっていう例として世界に発信できるんじゃないかという、大きな期待を持っています。すみません。本当にきょうは貴重なお話ありがとうございます。本当に皆さん一人一人のお話がプレシャスで、私の心の中にすごい響きました。ありがとうございます。

アミン ありがとうございます。

店田 はい、ありがとうございます、桜井先生。私も親世代のモスク会議とは全く違った貴重な話をたくさん聞かせていただいて、今回2回目ですけれども、いい次世代ムスリム会議が、多分これからも続けていけるんじゃないかという、将来のことも考えながら聞きました。

日本に住んでいるムスリム、17万人とか18万とかいるんですけども、若い人が今多分かなり、いわゆる第2世代の人が増えていて、特にハーフとか、あるいは外国人の国籍の方も含めて、2万から3万人ぐらいは若い人がいるんじゃないかと思うんですけども、いろんな人がいて、この場に出てくるような方々もいれば、そうじゃない人たちもいる。いろんな多様な形なんですけれども、その中で若い人がこれからは大きな力を日本のムスリム社会の中で恐らく持っていくんだろうなというふうに、改めて思いました。

先ほど、ジェネレーションMというのがありましたけれども、ジェネレーションMだと同じになっちゃうので、ジェネレーションJか、MJか、何か新しい言葉を考えてもいいのかなと思いますけれども、いずれにしても今後の力強い、日本のムスリム社会の胎動みたいなものを感じるようなところがありましたので、これからにも期待したいと思っています。

す。本当に、きょうはありがとうございました。この後は、例によって東京ムスリム飯店という、いつもの所ですけれども、おなかいっぱい食べられますので、ぜひ、そちらのほうにも時間があれば、参加してください。無料ですので、お金がかかりませんから、ぜひ、参加してください。本当にきょうはありがとうございました。じゃあ、これにてお開きにしたいと思います。ありがとうございました。

アミン ありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

(了)